

令和 7 年度

令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月迄

事業報告書

目 次

	項
○令和 7 年度 事業報告	1～4
○令和 7 年度 事業計画一覧	5
○令和 7 年度 佐賀県在宅生活サポートセンターの利用状況	
1 テクニカルエイド 2 車いすシーティング	6
3 展示業務 4 見学・体験	6
5 講座 ①リハビリ工房 ②一般向け ③地域包括向け	7
④高齢者 ⑤団体 ⑥専門職向け	8
⑦一般向け (1)福祉用具専門相談員指定講習・(2)リフトリーダー養成研修 ..	9
6 認知症カフェ	9
7 相談(1)介護・自立支援	9
7 相談(2)福祉用具	10
7 相談(3)住宅 8 生活支援用具等相談	11
9 福祉用具購入相談 10 福祉用具試用貸出状況	12
11 福祉用具教育貸出状況	13
12 施設貸出	14
13 情報収集提供 14 広報・周知	15
14 広報・周知 15 その他	16
資料 1	福祉用具展示品及び新規展示品・令和 7 年度展示一覧表
資料 2	介護講座受講状況
資料 3	アンケート集計結果

令和7年度佐賀県在宅生活サポートセンター管理運営業務の実施状況

1. 佐賀県在宅生活サポートセンター職員状況

職 名	職 種	勤務形態	人数
所長	作業療法士	常勤	1 名
副所長	介護福祉士	常勤	1 名
指導員（相談全般）	看護師	非常勤（日々雇用）	2 名
指導員（福祉用具調整）	理学療法士	非常勤（日々雇用）	1 名
指導員（事務補助）	福祉用具専門相談員	常勤	1 名

2. 運営委員会等の開催

会議名	開催日時・場所	議 題	委員数
運営委員会	令和 8 年 3 月 18 日(水) 13:30～15:00 さがサポセンター いきいき館	令和 7 年度運営状況について 令和 8 年度事業計画について	11 名
福祉用具等利用促進協議会	令和 8 年 3 月 18 日(水) 10:00～11:30 さがサポセンター いきいき館	令和 7 年度運営状況について 令和 8 年度事業計画について	7 名

事業内容

(1) 展示・見学・体験

- (ア) 福祉用具の展示、バリアフリーモデル住宅の展示・説明・体験
- (イ) 福祉用具の試用貸出、教育貸出
- (ウ) 福祉用具、住宅改修に関する相談への助言・体験

(2) 講座

- (ア) 県民各層に対する高齢者介護・自立支援知識の啓発、介護基礎知識・技術の習得
- (イ) 介護者に対する介護・自立支援知識・技術の習得
- (ウ) 地域リーダーを対象とした高齢者介護・自立支援に関する知識・技術の習得
- (エ) 専門職に対する介護・自立支援知識・技術の習得
- (オ) 福祉用具専門相談員指定講習会の開催
- (カ) 介護サービス相談員養成研修の開催
- (キ) リフトリーダー養成研修の開催
- (ク) 他の公的機関への出前講座（佐賀県警など）

(3) 情報収集提供

- (ア) 介護全般に対する相談窓口
- (イ) パンフレット、ホームページ、Facebook、Instagram、新聞等での情報提供
- (ウ) インターネットや各メーカーからの情報収集
- (エ) DVD の貸出
- (オ) 介護テクノロジーの紹介・デモンストレーション

(4) その他

- (ア) 認知症の人と家族の会と共催し認知症カフェを開催（毎月第3日曜日）
- (イ) 神野地区と共催で元気アップ教室へ協力（毎週：水曜日）
- (ウ) 佐賀県建築士会とのバリアフリー住宅相談（毎週：水曜日・日曜日）
- (エ) 佐賀県作業療法士会との生活相談（毎週：日曜日）
- (オ) さがサポセンターいきいき館祭 2025 の開催
- (カ) 重症化はなぜ起こる？環境からの影響を見直そう（講演、実技研修）
同時開催リフト体験会
- (キ) さが介護・健康・福祉フェア 2025 へ協力
- (ク) 佐賀県県民協働課と連携しUD 研修会へ協力
- (ケ) さがすたいるアドバイス事業へのアドバイザーの派遣
- (コ) 腰痛予防・福祉用具活用の出前講座
- (サ) 九州ブロック介護実習・普及センター等代表者及び担当者会議（リモートにて参加）
- (シ) 全国福祉用具相談・研修機関協議会総会（リモートにて参加）
- (ス) 支援機器の開発・普及のためのモデル拠点構築委員会（リモートにて参加）
- (セ) 健康づくり基礎研修会（健康・体力づくり事業財団）（eラーニング）
- (ソ) 介護現場における生産性向上の伴走支援セミナー（リモートにて参加）
- (タ) 県事業によるセンターでの福祉用具等の見学案内（介護の入門的研修等）
- (チ) ゆめさが大学「大学校祭」にてリーフレット配付

令和 7 年度事業計画一覧

1	テクニカルエイド	身体機能の評価と福祉用具の選定・調整・自助具作成			
2	車いすシーティング	姿勢の評価と車いすや車いす関連用具の選定・調整			
3	展示業務	・福祉用具展示 ・バリアフリーモデル住宅展示			
4	見学・体験	・福祉用具 見学・体験 ・バリアフリーモデル住宅 見学・体験			
5	講 座	県 指 定 事 業	①リハビリ工房	●自助具ワークショップ	
			② 一般向け	自立の気持ちを大切にしながら行える基本の介護を学ぶ ●介護予防① 脳トレ&体操レク ●介護予防② 認知症（認知症サポーター養成講座） ●介護予防③（食事・栄養教室） ●介護教室①（口腔ケア） ●介護教室②（排泄） ●介護教室③（入浴・更衣） ●介護教室④（丸ごと介護・初めての介護の不安等）	
			③地域包括向け	●生産性向上の取り組みについて ●事例検討（住宅改修を含めて、グループワーク） ●事例検討（福祉用具の活用、グループワーク） ●生活行為向上（自立支援のためにどう考える）	
			④ 高齢者	●シニア講座 介護技術・自立支援講座等	
			⑤ 団 体	小中高生	●ジュニア講座 高齢者疑似体験、車いす体験 ユニバーサルデザイン講座 介護・自立支援等（出前含む）
				企業団体	●企業団体介護・自立支援講座 大学/専門学校（出前含む）
		地域リーダー		●地域リーダー介護・自立支援講座 民生委員等（出前含む）	
		提 案 型 事 業	⑥専 門 職	●プランニング（ノーリフト・ケア・マネジメント） ●抱え上げない介護（4回）（入門編・起居・ポジショニング・排泄） ●車いすシーティング（2回）（基礎知識編・スキルアップ編） ●排泄（排泄ケアの基礎知識・オムツ選び） ●認知症（2回）（基礎知識）・（事例グループワーク） ●コミュニケーション（聴くチカラ話すチカラのポイント）	
			⑦ 一 般	●福祉用専門相談員指定講習 ●リフトリーダー養成講座	
		6	認知症カフェ	認知症の人と家族の会佐賀支部との共同事業として月に1回認知症カフェを開催	
7	相談窓口	（1）介護相談・自立支援相談 （2）福祉用具相談 （3）住宅改修相談			
8	生活行動支援用具等相談	福祉用具の適合や選定及び住宅改修等生活全般の相談			
9	福祉用具購入相談	適切な福祉用具購入への支援			
10	福祉用具試用貸出	福祉用具の適合判断のための貸出			
11	福祉用具教育貸出	福祉用具教育のための貸出			
12	施設貸出	施設、設備の貸出			
13	情報収集提供	DVD貸出 パンフレット配布 ホームページ・フェイスブック・Instagram等			
14	広報・周知	地域介護・自立支援教室（県内遠方への出前講座）			
		さがサポセンターいきいき館祭			
		介護テクノロジー講座・体験会			
15	その他	介護サービス相談員養成研修			

令和7年度 佐賀県在宅生活サポートセンターの利用状況

令和7年4月～令和8年3月迄

(令和6年度実績記載分は令和6年4月～令和7年3月迄の実績となっています)

1・テクニカルエイド ・身体機能の評価と福祉用具の選定・調整・自助具作成

- ・佐賀県作業療法士会（テクニカルエイドスタッフ）と連携し相談対応。
- ・テクニカルエイド室の機械操作習熟度研修の実施。

2・車いすシーティング ・姿勢の評価と車いすや車いす関連用具の選定・調整

- ・佐賀県作業療法士会との連携し研修会、相談会の実施。

3・展示業務 ・福祉用具展示及び新規展示状況 (令和7年3月31日現在)

種 類	展示数		(内) 新規	
	R7年度	R6年度	R7年度	R6年度
移動機器（車いす・リフト等）	300	275	29	23
パーソナルケア関連用具（入浴・排泄・衣類等）	242	236	6	22
家事用具（食事・炊事用具）	141	139	3	1
家具・建具，建築設備（手すり、ベッド等）	135	135	1	8
コミュニケーション関連用具（集音器、警報システム等）	51	51	0	1
操作用具（容器取扱器、すべり止めマット等）	32	31	1	0
治療訓練用具（床ずれ予防マット等）	23	23	0	0
義肢・装具（腰サポーター等）	7	7	0	0
その他（計測機器、レクリエーション用具等）	46	44	2	4
合 計	977	941	42	59

※いきいき館祭等の一時展示品は含まない

- ・「抱え上げない介護」で使用する体位交換クッションや車いすクッションなどが移動機器の数が増えている。
- ・展示品の生産終了、劣化などにより展示品の整理を現在も行い展示数の変動あり、あわせて、業者より新展示品の提案がありました。

資料 1 を参照

4・見学・体験

・福祉用具展示室 見学者

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R7年度 合計	R6年度 合計
見学 (人)	183	327	232	216	233	222	373	212	227	231	218	235	2,909	3,138

・バリアフリーモデル住宅 見学

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R7年度 合計	R6年度 合計
見学 (人)	12	78	15	10	49	18	60	9	10	14	21	9	305	351

5・講座

県指定事業

① リハビリ工房（自助具ワークショップ）

（実施日順）

講座名等		実施回数 [回]	受講者数 [人]	備考
地域一般・ 包括等	文字盤コミュニケーションボード製作	1	6	指差し・視線を使って意思疎通を図る文字盤
	ソックスエイドづくり！	1	10	片手でも靴下が履ける道具
	シップ貼りづくり！	1	8	ひとりでも「ピタット」貼れる道具
合 計		3 (3)	24 (25)	()は令和6年度実績

・参加者に自助具製作を通して、自助具の考え方や工夫の視点を伝えることができ、また、自立支援についての学びの場となった。

② 一般向け講座

（実施日順）

講座名等		実施回数 [回]	受講者数 [人]	備考
一般	介護予防① 脳トレ&体操	1	21	体を動かしながら脳の活性化につながる体操
	介護教室① 口腔	1	17	お口の健康は体の健康
	介護予防② 認知症	1	23	認知症サポーター養成講座
	介護教室② 排泄	1	12	おむつのポイントを知ろう！
	介護予防③ 栄養教室	1	20	低栄養とロコモ予防で元気に！
	介護教室③ 入浴・更衣	1	9	環境を整え福祉用具を活用
	介護教室④ 丸ごと介護	4	8	介護の不安・用具・住環境 事前予約
合 計		10 (8)	110 (81)	()は令和6年度実績

・介護予防や在宅介護の基本を中心に実施したところ、50 歳代以上の参加が多く、幅広い年齢層からの参加があった。介護や自立支援に対する理解促進に寄与した。

③ 地域包括向け講座

（実施日順）

講座名等		実施回数 [回]	受講者数 [人]	備考
地域包括	介護の生産性向上	1	45	管理者・リーダー向け 介護の生産性向上の取り組み
	事例検討①	1	13	介護保険にとらわれず必要な住宅改修 生活の工夫の提案
	生活行為向上	1	20	自立支援のためにどう考える
	事例検討②	1	12	車いす利用者について必要な住宅改修 車いす姿勢保持を含めた提案
合 計		4 (3)	90 (62)	()は令和6年度実績

・介護の生産性向上は現在の課題に即したテーマでの受講者には管理者、リーダーの受講につながった。

④ 高齢者

講座名等		実施回数 [回]	受講者数 [人]	備考
高齢者	シニア講座	5 (5)	163 (168)	佐賀県老人クラブ連合会との協催 ()は令和6年度実績

- ・県内の老人クラブの会員に向けて、介護、福祉用具、住宅改修等についての情報提供と、脳トレや体操などを実施した。後日、受講された会員から地域サロン活動での、団体見学につながった。

⑤ 団体

講座名等		実施回数 [回]	受講者数 [人]	備考
団体	ジュニア講座(小中高生)	62 (43)	1,231 (907)	小・中学校総合学習、高校福祉コースへの支援や家庭科学習での利用
	企業団体講座(大学・専門学校含む)	59 (74)	984 (1,365)	企業研修、介護出前講座 看護学校・専門学校の研修
	地域リーダー講座	26 (30)	456 (492)	民生・児童委員・ボランティアヘルパー研修
合 計		147 (147)	2,671 (2,764)	* 出前講座含む ()は令和6年度実績

- ・ジュニア講座では、出前講座も多く、高齢者疑似体験を通じて高齢者の特徴を理解できた。ユニバーサルデザイン講座、車いす体験などから、福祉用具を活用した自立支援の具体的なイメージを持ってもらうことが出来た。
- ・企業団体講座では、来所できなかった団体とオンラインで対応をしたり、看護学校等では見学と機器の体験、事例検討を行うことで、実践的な研修ができた。
- ・地域リーダー講座では、福祉用具について説明し、実際にリフト等の体験をし、「抱え上げない介護」の考え方を伝えることができました。
- ・佐賀県県民協働課「さがすたいる」より依頼で、小中学校へ高齢者疑似体験講座を行った。

提案型事業

⑥ 専門職向け講座

(実施日順)

講座名等		実施回数 [回]	受講者数 [人]	備 考
専門職	移動移乗・抱え上げない介護って何？	1	21	抱え上げない介護導入・施設・事業所向け
	プランニング	1	22	ノーリフト・ケア・マネジメント
	移動移乗・抱え上げない介護Ⅰ	1	30	起居動作編
	認知症① 基礎知識	1	35	認知症に関する基礎知識と対応
	排泄	1	23	「尊厳」を重視した排泄ケア
	コミュニケーション	1	32	「聴くチカラ」「話すチカラ」のポイント
	車いすシーティング①	1	25	基礎知識編
	移動移乗・抱え上げない介護Ⅱ	1	27	ポジショニング編
	認知症② グループワーク	1	17	専門的に利用者の状態を知り、取り組み
	車いすシーティング②	1	29	スキルアップ編
	移動移乗・抱え上げない介護Ⅲ	1	24	排泄動作編
合 計		11 (12)	285 (258)	()は令和6年度実績

- ・「認知症対応」、「抱え上げない介護」等、現場課題に即したテーマへ多くの参加につながった。
- ・シリーズ化したことで、リピーターの受講者も増えた。

⑦ 一般向け

一般	福祉用具専門相談員指定講習	1 (1)	16 (12)	講習9日間 ()は令和6年度実績
	リフトリーダー養成研修	1 (1)	24 (24)	講習2日間 (R8.2/14・15実施) ()は令和6年度実績

- ・福祉用具専門相談員指定講習会は、53時間の講座を実施し、修了書を発行し就労につながった。
- ・リフトリーダー養成研修は、職場の腰痛予防対策と抱え上げない介護の普及を担う人材の講座を行った。修了者には「テクノエイド協会」より修了書が発行された。

※各講座詳細については、資料2「介護講座受講状況」及び資料3「アンケート集計結果」を参照

6・認知症カフェ

講座名等	実施回数 [回]	受講者数 [人]	備考
認知症家族の会 カフェオレンジ	11 (11)	293 (275)	毎月第3日曜日 10:00～12:00 センター2階 実習室にて ()は令和6年度実績

- ・作業療法士会・介護福祉士会より相談員の参加。

・月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R7年度 合計	R6年度 合計
利用(人)	21	22	31	31	18	中止	19	26	28	28	33	36	293	275

- ・9月は佐賀市656広場にて認知症イベントのためセンターでの開催は無し。

7・相談窓口

(1)介護全般(自立支援)に関する窓口相談 *電話相談も含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R7年度 合計	R6年度 合計
相談(件)	141	181	187	192	191	193	203	197	202	174	156	144	2,161	2,116

・相談内訳 (2,161 件)

分 類	R7年度件数	R6年度	分 類	R7年度件数	R6年度
介護職員研修等	765	744	リハビリ	1	0
介護保険・ケアプラン等	196	188	病気・難病	0	0
福祉サービス	129	134			
移動・移乗	113	127	研修室・実習室貸出	307	297
介護(自立支援悩み相談含)	56	62	用具貸出	215	213
テクニカルエイド	54	11	センターの案内	109	69
入浴	37	31	介護以外の悩み	10	9
住宅改修・業者の紹介等	31	32	介護ロボット関係	5	10
介護技術	31	64	センター以外のイベント	4	16
排泄	23	32	研修講師紹介	3	4
食事	18	13	車の運転	3	0
シーティング	16	11	賃貸住居	2	0
介護予防	10	8	防災関連	1	2
コミュニケーション(聴覚)	8	14	介護職就職・資格	0	3
認知症	7	14	その他の合計	659	(623)
ユニバーサルデザイン	7	8	合 計	2,161	2,116

(2)福祉用具展示室 見学者数及び福祉用具相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R7年度 合計	R6年度
見学 (人)	183	327	232	216	233	222	373	212	227	231	218	235	2,909	3,138
相談 (件)	453	508	640	1,038	275	477	507	945	685	632	578	468	7,206	8,811

・相談状況 (7,206件)

分類	項目	R7年度 件数	R6年度	分類	項目	R7年度 件数	R6年度
移動機器 ※3,481 (48%)	杖	1,564	1,758	コミュニケーション 関連用具 ※480 (7%)	集音器・対話用機器	269	297
	歩行補助用具(歩行器等)	659	840		コミュニケーションロボット	189	415
	車いす(電動四輪含)	556	901		警報・通報装置	11	12
	リフト(移動・入浴用)	224	255		電話機・電話用器械	8	8
	車いす用品	214	267		ルーペ等	2	3
	移乗補助用具	182	231		音伝達システム	1	4
	体位交換用具	80	129		補聴器	0	1
	自転車	2	0		表示機器	0	0
	視覚障がい者用機器	0	1		家具・建具 建築設備 ※369 (5%)	テーブル・いす	127
トイレ・入浴 身体身だしなみ パーソナルケア 関連用具 ※1,412 (20%)	シャワーチェア	400	492	手すり(簡易手すり含)		106	138
	衣類・靴	381	471	ベッド		104	210
	入浴用品	287	323	昇降装置(スロープ含)		31	34
	ポータブルトイレ	166	170	建築物用安全設備		1	2
	オムツ用品	59	101	家事用具 操作用具 ※1,206 (17%)	自助具・食事用具	1,031	986
	髪の手入れ用具	49	29		容器取扱い用具	150	164
	採尿器・集尿器	24	14		自助具(手指補助)	17	35
	トイレ用具	24	28		自助具(制御・スイッチ等)	7	4
	更衣用品	18	14		自助具・炊事用具	1	8
爪の手入れ用具	3	5	自助具・洗濯ばさみ等		0	2	
歯・口の手入れ用具	1	1	自助具(固定・滑り止めマット等)		0	1	
・移動機器が全体の48%と相談が多かった。その内、杖、歩行器、車いすが多く、導入前の確認(種類・使用方法等)についての相談が多かった。 ・購入希望者が多く、事業所販売店の紹介を行う。 (事業所一覧・チラシをお渡しする)				義肢・装具	義肢・装具・腰サポーター	1	5
				治療訓練用具	運動訓練機器	1	1
					投薬用具・薬ケース	0	1
					褥瘡予防用具	0	0
				その他用具	介護ロボット	210	270
					介護食・栄養補助食品	20	5
					*その他の用具	26	30
				合 計		7,206	8,811

※運営委員会R8年1月締報告書・分類合計数間違いのため3月締にて訂正

***その他の用具内訳**

災害防災用具	11	ぶら下がり健康機	1
レクリエーション用具	6	包帯	1
計測機器・血圧計・座圧計	3	福祉車両	1
足ふみ健康機	2	転倒センサー	1
計			26

(3) バリアフリーモデル住宅 見学者数及び住宅相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R7年度 合計	R6年度
見学 (人)	12	78	15	10	49	18	60	9	10	14	21	9	305	351
相談 (件)	253	206	588	861	204	334	496	768	753	404	530	342	5,739	6,414

・相談状況 (5,739件)

分 類	R7年度	R6年度	分 類	R7年度	R6年度
台所(食事・炊事用具含)	1,177	1,370	スロープ	162	182
車いす・移動移乗用具	545	594	寝室(ベッド等)	149	164
浴室	353	447	段差解消機	148	158
トイレ	327	370	エレベーター	143	153
手すり	318	349	階段昇降機	139	161
扉・間口	316	394	階段・廊下	138	154
洗面・脱衣室	280	315	ベッドサイド水洗トイレ	135	146
移動畳・椅子	269	272	費用	124	144
コール機器・電話機	232	241	その他(グレーチング)	4	土質 1
スイッチ・コンセント	222	198			
玄関	192	216			
見守り機・離床センサー	192	202			
リフト	174	183	合 計	5,739	6,414

- ・住宅改修にあわせて、福祉用具を活用した環境調整を提案し、在宅での生活をイメージしてもらった。中には、繰り返し相談・確認に来られる方もあった。
- ・毎週水曜・日曜日は建築士が在中し相談対応している。
- ・佐賀県住まいづくりサポートセンターや福祉用具貸与事業所の紹介している。

8・生活行動支援・用具相談

・生活行動・用具等支援相談利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R7年度 合計	R6年度
相談(件)	43	85	45	77	37	100	92	81	99	94	71	103	927	861

- ・毎週日曜日は作業療法士会より相談対応。
- ・毎週水曜日、日曜日は建築士会より相談対応。

・相談内容

相談内容	R7年度	R6年度
用具選定	389	354
施設業者紹介・福祉サービス 介護保険	210	174
介助方法・移乗移動方法	181	192
住宅改修	116	113
シーティング	14	12
認知症・その他	7	11
テクニカルエイド	8	0
身体的・精神的・病気	2	5
リハビリ相談・ADL・言語	0	0
合計	927	861

・相談者内訳

相談者	R7年度	R6年度
家族 (本人と家族含む)	317	291
本人	31	39
医療 福祉関係者	25	26
一般・学生	4	2
住宅関係者	1	1
合計	378	359

(※1名につき複数の相談あり)

- ・導入する福祉用具を本人が来場して体験したうえでの、用具選定の提案ができた。

9・福祉用具購入相談

- ・日本福祉用具供給協会佐賀ブロック等福祉用具販売事業所につなぎ購入相談を随時行う。
- ・相談状況

区 分	R7年度 件数	R6 年度	件 数
移動機器	111	141	・歩行器・歩行車(53) ・杖(17) ・車いす(13) ・リフト(9) ・移乗補助用具(8) ・車いすクッション、車いす用品(6) ・杖関連用具(ホルダー等)(4) ・体位交換クッション(1)
パーソナルケア 関連用具	79	77	・入浴用品(23) ・靴(18) ・トイレ用品(13) ・シャワーチェア(10) ・ポータブルトイレ(9) ・衣類(5) ・更衣用具(1)
家具・建具・建築設備	25	29	・手すり(8) ・電動ベッド(5) ・スロープ(3) ・段差解消機(2) ・建物用安全設備(2) ・椅子(3) ・階段昇降機(1) ・ベッド関連用品(1)
家事(自助具) 食事用具等	13	11	・箸(9) ・皿(3) ・スプーン・フォーク(1)
コミュニケーション 関連用具	7	10	・対話用機器(2) ・警報システム(2) ・表示機器(1) ・集音器(1) ・コミュニケーションロボット(1)
操作用具(自助具)	1	1	・ボトルオープナー(1)
義肢装具	0	1	
治療・訓練用具	1	0	・包帯(1)
その他	3	3	・防災用具(2) ・腕つりサポーター(1)
合 計	240	273	

10・福祉用具試用貸出状況

- ・事業所別貸出状況

事業所名	R7年度 件数	R6 年度
居宅サービス事業者	17	14
公的機関・団体	2	2
専門職団体	3	3
介護保険施設	1	1
居宅介護支援事業者		1
医療機関		0
身体障がい者援護施設		0
NPO法人		0
グループホーム		0
有料老人ホーム・その他	1	0
合 計	24	21

- ・分類別貸出状況

分類	用具	R7年度 件数	R6 年度
移動機器	・杖 ・歩行器 ・車いす ・体位交換用具	24	9
自助具・家事用具	・箸 ・スプーン	12	3
パーソナルケア 関連用具	・入浴用チェアー ・バスボード ・入浴すべり止めマット ・靴 ・シャワーキャリー ・浴槽台	5	23
自助具・操作用具	・グリップ	1	0
コミュニケーション関連			1
家具・建具・建築設備			0
治療訓練用具			1
その他	・介護ロボット リフト類	1	0
合 計		43	37

- ・導入前に実際の使用感を確認できたことで、円滑な導入につながっている。

11・福祉用具教育貸出状況

・事業所別貸出状況

事業所名	回数	事業所名	回数
介護労働安定センター	14	ケアリフォームシステム研究会	1
リハビリテーション3団体協議会	9	九州国際ビジネス専門学校	1
佐賀県県民協働課	7	佐賀市医師会立看護専門学校	1
セントケア九州 株式会社	4	佐賀歯科衛生専門学校	1
佐賀県介護福祉士会	4	柳川リハビリテーション学院	1
佐賀県作業療法士会	4	佐賀女子短期大学	1
伊万里看護学校	2	鳥栖市田代中学校	1
佐賀県立神埼清明高校	2	佐賀大学教育学部付属小学校	1
佐賀市立蓮池公民館	2	小城市 徳富医院	1
ニチイ学館佐賀支部	2	多久市社会福祉協議会	1
佐賀県危機管理防災課	1	佐賀・福岡医療介護事業者情報交換会	1
佐賀県長寿社会振興財団	1	障害者支援施設 めぐみ園	1
佐賀県労働者福祉協議会	1	合 計	66
佐賀県介護老人保健施設協会	1		(74)

()は令和6年度

・分類別貸出状況

分 類	用 具	件数
移動機器	・車いす ・車いすクッション ・歩行器 ・杖 ・移乗シート ・床走行リフト ・スリングシート ・移乗ボード ・介助グローブ ・体位交換クッション	379
パーソナル関連用具	・シャワーチェア ・浴槽台 ・更衣用具 ・尿器 ・差し込み便器 ・入浴滑り止めマット	40
自助具・家事用具	・UD皿 ・スプーン、フォーク ・箸 ・洗濯物干し	26
コミュニケーション関連用具	・電話機 ・電話用機器 ・対話用機器 ・集音器 ・ワイヤレスコール・コミュニケーションロボット	16
自助具・操作用具	・容器オープナー ・スイッチ類	6
家具・建具・建築設備	・椅子 ・スロープ	3
治療訓練用具		0
その他	・簡易高齢者疑似体験セット	81
その他	・介護ロボット（移動リフト・等）	5
合 計		556 (550)

()は令和6年度

- ・福祉系養成校や医療福祉系団体の研修、教育活動として、貸し出しを行った。
- ・佐賀県県民協働課「さがすたいる」より小中学校等（ユニバーサル講座）で利用。
- ・センターでの「抱え上げない介護講座」を受講された施設に対して導入前の確認として貸出した。

12・施設貸出

・専門職団体の研修及び県委託事業研修会等、老人クラブ役員会等

区分	団 体 名 (回数)	貸出施設	貸出回数
県委託事業研修会	・介護労働安定センター (12) (介護労働講習・実務者研修)	2階研修室・実習室	12
専門職団体	・佐賀県リハビリテーション 3団体協議会 (11) ・佐賀県介護福祉士会 (7) ・佐賀県作業療法士会 (4) ・NPO法人ケアリフォームシステム研究会 (1) ・佐賀・福岡介護医療事業者情報交換会 (1)	2階研修室	24
その他	・神野町地域元気アップ事業 (46) (はればれ元気アップ教室) ・九州鉄道OB会 佐賀支部 (26) ・佐賀県老人クラブ連合会 (11) ・佐賀県長寿社会振興財団 (9) ・セントケア九州 株式会社 (8) ・佐賀県介護老人保健施設協会 (8) ・佐賀県健康福祉部 長寿社会課 (4) ・認知症の人と家族の会 (3) ・九州国際情報ビジネス専門学校 (2) ・NPO法人 放課後スクールユニスさが (2) ・生活を豊かにする障害児・者支援福祉協会 (2) ・全国産業教育フェア佐賀大会準備委員会 (2) ・佐賀県県民環境部 県民協働課 (2) ・佐賀県地域交流部 さが創生推進課 (1) ・being佐賀 (1) ・佐賀県高等学校教育研究会 (1) ・佐賀県難病支援ネットワーク (1) ・佐賀県労者福祉協議会 (1) ・佐賀県立神埼清明高等学校 (1) ・ときわ会 (1) ・介護労働安定センター (1) ・佐賀歯科衛生専門学校 (1) ・三井情報 株式会社 (1)	2階研修室・実習室	135
佐賀県在宅生活 サポートセンター (自主事業)	・専門職講座 センター祭イベント等 (30)	2階研修室	30
合 計			201

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R7年度 合計	R6年度
回数	10	12	15	17	18	23	20	21	20	16	19	10	201 (回)	215
人数	172	292	329	334	408	562	481	416	404	399	440	273	4,510 (人)	5,149

13・情報収集提供

項 目	内 容
パンフレット作成配布	・センターリーフレット 2,000部 ・講座案内 3,500部 ・イベント案内 3,000部 ・センター案内ポケットティッシュ 500個 主な配布先 (包括支援センター、役場、公民館、福祉施設、専門学校 高等学校(福祉科)、作業療法士会会員、介護福祉士会会員 老人クラブ、民生児童委員 等)
情報誌、新聞等への掲載	・「佐賀新聞」「西日本新聞」に講座案内、センター業務案内
ホームページ フェイスブックへの掲載	・介護講座案内・イベント案内 ・福祉用具の展示、モデル住宅の紹介 ・配布物等にQRコードを入れセンターホームページへご案内 ・ホームページ・フェイスブックの更新 ・インスタグラムの更新
介護DVD貸出	・ 貸出実績 11本 (令和6年度 31本) ・専門職職員への貸出し、施設内研修等での活用。
インターネット検索	・対象者のニーズに応じて最新の情報を提供 (展示用具に商品QRコードを付ける等の詳細説明対応)
その他	・県主催「介護の日イベント」参加

・イベント案内3,000部の一部を神野地区にポストインにて配布して、地域住民の集客を行った。

14・広報・周知

- ・一般県民向け・地域介護教室(県内遠方への出前講座等)

講座名等	実施回数 [回]	受講者数 [人]	備考
さが介護・健康・福祉フェア2025	1	150	11月9日 ゆめぶらっと小城にて
合 計	1 (1)	※150 (300)	()は令和6年度実績

※センター案内リーフレットの配布

※運営委員会R8年1月締報告書・合計人数間違いのため3月締にて訂正

・さがサポセンターいきいき館祭

講座名等		実施回数 [回]	受講者数 [人]	備考
一般	・福祉機器の展示・体験 ・介護相談 ・建築士住宅相談 ・体力測定 ・ミニ畳作り ・地域元気アップ事業 見学・体験会 ・作業所による販売会(パン・お菓子)	1	122	5月28日(水)開催 さがサポセンターいきいき館祭 佐賀県作業療法士会 佐賀県介護福祉士会 佐賀県建築士会 福祉用具供給協会等の協力開催
合 計		1 (1)	122 (161)	()は令和6年度実績

・神野地区にポストインにてイベント案内を配布して地域住民の参加を促した。

・介護テクノロジー講座・体験

講座名等		実施回数 [回]	受講者数 [人]	備考
一般 専門職	・介護テクノロジー講座・体験 『重症化はなぜ起こる？ 環境からの影響を見直そう』	2	41	10月24日(金) 講演会 10月25日(土) 講義・実技 講師：香川 寛 氏
	・相談・見学来場	2	33	リフト体験会
合 計		4	74	

・さがサポセンターいきいき館祭



・介護テクノロジー講座・体験

・展示室にてオムツの説明

・電動4輪試乗

・講師：香川 寛 氏

15. その他 ・県委託事業

講座名等	実施日	受講者数 (人)	備考
介護サービス相談員補 養成研修	令和7年6月13日	12 (10)	()は令和6年度実績
	令和7年7月24日	12 (8)	
介護サービス相談員 (正)研修	令和7年10月15日	14 (7)	()は令和6年度実績
	令和7年10月28日	15 (7)	
	令和7年11月5日	15 (7)	
介護サービス相談員 現任研修	令和7年9月16日	25 (30)	()は令和6年度実績
	令和7年10月9日	23 (26)	

福祉用具展示品及び新規展示品

令和7年4月～令和8年3月

1.福祉用具展示品

パーソナルケア関連用具や移動機器を中心に約 977点の福祉用具を展示した。

大分類	中分類	主な用具	品数
移動機器 (300品)	杖	T字杖、4点杖等	56
	歩行器・歩行車	歩行器、シルバーカー等	46
	車椅子関連	車椅子、電動四輪、クッション等	74
	リフト	床走行式リフト、バスリフト、簡易リフト等	42
	移動補助用具・体位変換用具	スライディングボード・シート、手すり等	82
パーソナルケア 関連用具 (242品)	トイレ用具	ポータブルトイレ、オムツ用具等	46
	入浴用品	入浴用チェア、シャワーキャリー、浴槽台等	57
	衣類・更衣用具	肌着、エプロン、靴、靴下エイド等	125
	その他	うがいキャッチ、爪きり、くし等	14
家具・建具・ 建築設備 (135品)	ベッド	ベッド、マットレス、寝具等	47
	支持用具	手すり、浴室用手すり等	25
	昇降装置	段差解消器、階段昇降機、簡易スロープ等	17
	テーブル・椅子	テーブル、椅子等	25
	安全設備	タイル、滑り止めシート等	20
	その他	木製高さ調節踏み台	1
家事用具 (141品)	炊事用具	包丁、まな板、皮むき器等	12
	食事用具	箸、スプーン、フォーク、皿等	125
	衣類の製作・手入れ用具	洗濯物干し等	4
コミュニケーション 関連用具 (51品)	補聴器・助聴器	助聴器、集音器等	5
	電話機器	電話機、受話器用アンプ等	5
	音伝達システム	サウンドアシスト	3
	対話用機器	絵本、支援ボード等	6
	警報システム	緊急通報システム、人感センサー等	16
	表示機器	チャイム等	3
	光学的・非光学的補助具	ルーペ、書見台等	4
	その他	コミュニケーションロボット等	9
操作用具(32品)	容器取扱用具	オープナー等	8
	制御用機器	リモコン、レバー等	5
	その他	リーチャー、すべり止めマット等	19
治療訓練用具 (23品)	褥瘡予防用具	褥瘡予防マットレス、ビーズパッド等	17
	投薬用具	服薬支援、血圧計等	5
	運動・筋力・バランス訓練器具	運動器具等	1
義肢・装具(7品)	体幹装具	腰サポーター等	7
環境改善機器・作業用具(6品)	計測機器	座圧測定器等	6
レクリエーション用具(22品)	玩具、その他	将棋、パズル、スポーツ用具等	22
その他(18品)	その他	健康グッズ、災害用具、畳等	18

☆新規展示品あるが、商品の返却や廃盤等による商品見直しの為、昨年より数が減少している項目あり。

☆展示用具が一目でわかるように種類ごとに展示。

☆情報コーナーとして、介護保険対象用具や使用方法等についてわかりやすく提示。

※詳細については、資料1の「福祉用具展示品一覧」を参照。

令和 7 年度 講座実施状況

(令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月実施分)

＜目次＞	項
① リハビリ工房	1
② 一般向け講座	2
③ 地域包括向け講座	3
④ 高齢者・シニア講座	3
⑤ 団体向け講座	
○ジュニア講座・小中高生	4
○企業団体講座	5
○地域リーダー講座	6
⑥ 専門職向け講座	7
⑦ (1)福祉用具専門相談員指定講習会	8
(2)リフトリーダー養成研修	9

令和7年4月～令和8年3月実施分

(令和6年度実績記載分は令和6年4月～令和7年3月迄の実績になります)

① リハビリ工房

令和8年3月31日現在

内容及び講師	回数	受講者 (人)	実施日 (実施日順)
・文字盤コミュニケーションボードを作ろう！ 透明文字盤で指差しや視線を使って意思疎通を図る リハビリエンジニア 井手 将文 先生	1	6	R7.7.2
・ソックスエイドづくり！片手バージョンも作ろう！ 片手でも扱える靴下が履きにくくなった方への道具 新武雄病院 作業療法士 牟田 啓人 先生	1	10	R7.10.1
・ひとりでも「ピタット貼れる」シップ貼りづくり！ 手が届かない所に・・・フィルムタイプのシップに対応した道具 佐賀リハビリテーション病院 作業療法士 泉 拓也 先生	1	8	R8.2.5
合 計	3 (3)	24 (25)	

()は令和6年度実績



・文字盤コミュニケーションボード製作



・ソックスエイド製作



・シップ貼り製作

② 一般向け講座

内容及び講師	回数	受講者 (人)	実施日 (実施日順)
介護予防① 脳トレ&体操レクリエーション 演習 ・体を動かしながら脳の活性化につながる体操 佐賀県在宅生活サポートセンター 理学療法士 吉田 糸織	1	21	R7.4.24
介護教室① お口の健康はからだの健康 ・歯や歯茎などが健康になるための介護方法を学びます 佐賀歯科衛生士会 会長 陣内 美穂子 先生	1	17	R7.6.4
介護予防② あなたも認知症サポーターになりませんか ・認知症サポーター養成講座 認知症の正しい理解、具体的な声掛け・接し方 佐賀県在宅生活サポートセンター副所長 介護福祉士 中西 美枝子	1	23	R7.9.3
介護教室② おむつのポイントを知ろう！演習 ・尿漏れしない正しいおむつのあて方・選び方のポイント 大王製紙 株式会社 川上 幸奈 氏	1	12	R7.11.12
介護予防③ 栄養教室 健康寿命を延ばしましょう！ ・低栄養予防とロコモ予防で元気に 管理栄養士によるレシピ紹介 公益社団法人 佐賀県栄養士会 管理栄養士 井手 なるみ 先生	1	20	R7.12.4
介護教室③ 入浴・更衣 ・環境を整え福祉用具を活用した入浴・更衣 リハビリ専門職からの提案 佐賀リハビリテーション病院 作業療法士 竹下 宏史 先生	1	9	R8.1.22
介護教室④ 丸ごと介護 ・初めての介護・これからの在宅介護・不安なこと等相談 福祉用具の活用・住環境の整えポイント 佐賀県在宅生活サポートセンター副所長 介護福祉士 中西 美枝子 佐賀県建築士会	4	8	R7.6.19 R7.7.6 R7.7.16 R8.2.10
合 計	10 (8)	110 (81)	

()は令和6年度実績



・介護予防①脳トレ&体操



・介護教室①口腔ケア



・介護教室② おむつのポイント

③ 地域包括向け講座

内容及び講師	回数	受講者 (人)	実施日 (実施日順)
介護の生産性向上 ・介護の生産性向上の取り組み (管理者・リーダー向け) ・事業所・施設の方に考え方・方法について 特別養護老人ホーム なごみの里 施設長 土居 孝男 氏	1	45	R7.5.15
事例検討① ・福祉用具の活用・演習 ・介護保険にとらわれず、必要な住宅改修・生活の工夫 医療法人清心会 服巻医院 作業療法士 前田 憲志 先生 合同会社 結絆 主任介護支援専門員 野崎 祐介 先生	1	13	R7.6.19
生活行為向上 ・自立支援についてどう考える ・福祉用具の特徴を知り自立支援の在り方について学ぶ 佐賀県作業療法士会 作業療法士 寺崎 司 氏	1	20	R7.8.6
事例検討② ・福祉用具の活用・演習 ・車いす利用者の住宅改修の提案・車いす姿勢保持を含めた提案 医療法人清心会 服巻医院 作業療法士 前田 憲志 先生 合同会社 結絆 主任介護支援専門員 野崎 祐介 先生	1	12	R7.10.16
合 計	4 (3)	90 (62)	

()は令和6年度実績

④ 高齢者 ・シニア講座

内容及び講師	回数	合計 (人)	備考
・福祉用具 見学・体験 ・バリアフリーモデル住宅 見学・体験 ・脳トレ体操・レクリエーション 佐賀県在宅生活サポートセンター職員	5	163	県老人クラブ との協催 10:00～15:00
・友愛活動に役立つ講座「現役住職から見た終活」 佐賀のホスピスを進める会 住職 山下 一徹 氏 ・友愛活動に役立つ講座「健康講座」 大塚製薬 株式会社 松山 栄里子 氏			
① 伊万里市・小城市・有田町・玄海町・大町町 (6/5 実施) ② 唐津市・嬉野市 (7/10 実施) ③ 武雄市・鹿島市・白石町・江北町 (9/4 実施) ④ 鳥栖市・神埼市・吉野ヶ里町・上峰町・みやき町 (10/2 実施) ⑤ 佐賀市 (11/13 実施)	5 (5)	163 (168)	

()は令和6年度実績

・地域包括向け講座
介護の生産性向上



・シニア講座
バリアフリー
モデル住宅見学

⑤ 団体向け講座

○ジュニア講座

小学校		回数	人数
佐賀市立 神野小学校		4	128
佐賀市立 金立小学校	出前	4	102
佐賀市立 巨勢小学校	出前	2	56
佐賀市立 小中一貫芙蓉校	出前	4	46
唐津市立 西唐津小学校	出前	2	41
小城市立 芦刈観欄校	出前	2	40
武雄市立 山内西小学校	出前	2	33
佐賀市立 南川副小学校 川副町地域包括支援センター	出前	2	32
伊万里市立 黒川小学校	出前	2	25
武雄市立 橘小学校	出前	2	22
武雄市立 東川登小学校	出前	2	12
11 団体		28	537

小学生		回数	人数
玄海町社会福祉協議会	出前	2	36
玄海町社会福祉協議会		1	23
蓮花の会放課後デイサービス		1	18
3 団体		4	77

中学校		回数	人数
伊万里市立 山代中学校	出前	2	25
1 団体		2	25

高等学校		回数	人数
佐賀清和高等学校		13	341
佐賀女子高等学校 衛生看護科		4	76
牛津高等学校	出前	2	64
熊本城北高等学校		2	33
神埼清明高等学校		2	28
九州国際高等学園		1	17
牛津高等学校		1	12
大牟田高等学校		1	11
佐賀女子高等学校 普通科 福祉コース		2	10
9 団体		28	592

	回数	人数
令和 7 年度合計:24 団体	62	1,231
令和 6 年度合計:15 団体	43	907

※佐賀県県民環境部県民協働課依頼 さがすたいる 合同講座



・佐賀市神野小学校
バリアフリーモデル住宅見学



・武雄市東登川小学校
(出前) 高齢者疑似体験



・佐賀女子高等学校衛生看護科
スライディングボード体験

○企業団体講座

医療・看護・福祉系学校		回数	人数
武雄看護 リハビリテーション学校 (看護学科)(理学療法学科)		2 2	39 34
柳川リハビリテーション学院 (PT 学科)(OT 学科)		2 2	39 24
佐賀女子高等学校 衛生看護 専攻科		4	66
佐賀大学医学部看護科		5	59
西九州大学看護学部		4	65
西九州大学 (PT 専攻科) リハビリテーション学部		2	46
唐津看護専門学校 (高等課程・専門課程)		3	44
佐賀女子短期大学		2	43
佐賀県医療センター 好生館看護学院		2	42
緑生館 総合看護学科		2	37
西九州大学短期大学部		2	36
武雄看護学校(看護科)		2	35
伊万里看護学校		2	32
国際医療福祉大学 (OT 学科)		2	28
佐賀歯科衛生専門学校		2	28
鳥栖三養基医師会立 看護高等専修学校		2	27
九州国際ビジネス専門学校		2	21
八女筑後看護専門学校		1	16
佐賀大学 教育学部		1	13
鳥栖市 アカデミー看護専門学校 (県民協働課より依頼)	出前	1	10
西九州大学社会福祉学部		1	7
21 団体		50	791

官公庁・社協等		回数	人数
佐賀県警察本部警務部	出前	1	30
みやき町地域包括 支援センター	出前	1	30
佐賀県長寿社会課		1	4
佐賀県ひとり親 サポートセンター		1	4
4 団体		4	68

介護職員等養成機関		回数	人数
介護労働安定センター		4	80
	zoom	1	45
1 団体		5	125

	回数	人数
令和 7 年度合計:26 団体	59	984
令和 6 年度合計:36 団体	74	1,365



・医療福祉専門学校
緑生館総合看護学科 (リフト体験)

○地域リーダー講座

社協・民児協・公民館 老人クラブ		回数	人数
佐賀市金泉 地域包括支援センター		1	25
大戸老人クラブ 長盛会	出前	1	23
肥前町老人クラブ連合会		1	23
佐賀市循誘校区 社会福祉協議会		1	22
唐津市肥前地区 民生委員児童委員協議会		1	20
嬉野老人クラブ満寿会		1	18
南川副町まちづくり協議会		1	18
江北町役場健康福祉課 へそのまちお助けサポーター	出前	1	15
吉野ヶ里 社会福祉協議会		1	14
みやき町西大島老人クラブ		1	14
基山町民生委員児童委員 協議会		1	13
鳥栖飯田町 民生委員児童委員協議会		1	12
武雄市社会福祉協議会		1	11
西川副町まちづくり協議会		1	9
14 団体		14	237

団体名		回数	人数
ゆめさが大学 鳥栖校実践課程		2	43
ゆめさが大学 鹿島校実践課程		2	38
ゆめさが大学 唐津校実践課程		2	30
唐津久里 マロンカフェ		1	25
伊万里 ひまわり会		1	18
久留米市三潁町 総合ボランティアセンター		1	18
有田町牧トリム体操		1	16
吉野ヶ里 上豆田老人クラブ		1	16
よしまちふれあいサロン		1	15
9 団体		12	219

	回数	人数
令和 7 年度合計:23 団体	26	456
令和 6 年度合計:26 団体	30	492



・鳥栖市飯田町民生委員児童委員協議会
(1階展示室・福祉用具見学・体験)



・ゆめ佐賀大学唐津校 実践課程
(バリアフリーモデル住宅見学・体験)

⑥ 専門職向け介護講座

内容及び講師	回数	受講者 (人)	実施日 (実施日順)
移動移乗 抱え上げない介護って何？・演習 ・抱え上げない介護の導入を検討されている施設・事業者向けの内容 佐賀県リハビリテーション3団体協議会 理学療法士 塚原 大和 先生 実技指導者4名	1	21	R7.5.21
プランニング ノーリフト・ケア・マネジメント ・抱え上げない介護に取り組むために専門職としての役割・目的を学ぶ コネクトリハビリテーション 作業療法士 山形 茂生 先生	1	22	R7.6.25
移動移乗 抱え上げない介護Ⅰ・演習 ～起居動作編～ ・介助者の正しい身体の使い方 佐賀県リハビリテーション3団体協議会 理学療法士 塚原 大和 先生 実技指導者6名	1	30	R7.7.23
認知症1 認知症の基礎知識と対応 ・社会資源を中心に認知症の方のかかわり方を学ぶ 若年性認知症コーディネーター・認定社会福祉士 山口 敏伸 氏	1	35	R7.7.31
排泄 一人ひとりの尊厳を守り生活への自立支援 演習 ・「尊厳」を重視した排泄ケア、介助方法を学ぶ コンチネンスアドバイザー 看護師 種子田 美穂子 氏	1	23	R7.8.20
コミュニケーション コミュニケーション能力を高めよう ・「聴くチカラ」「話すチカラ」のポイントを学ぶ 株式会社IDO メンタルヘルス事業部 カウンセラー 原 摩利香 氏	1	32	R7.9.11
シーティング1・演習 ～基礎知識編～ 生活にどんな影響があるの？ ・車いすシーティングの基本的内容から体験を通して学ぶ 佐賀県作業療法士会 佐古 英樹 先生 実技指導者5名	1	25	R7.9.17
移動移乗 抱え上げない介護Ⅱ・演習 ～ポジショニング編～ ・安心した睡眠・安全な食事のためのポジショニングを学ぶ 佐賀県リハビリテーション3団体協議会 作業療法士 川口 大貴 先生 実技指導者6名	1	27	R7.10.22
認知症2 専門的に利用者の状態を知り、取り組み ～グループワーク～ ・グループワークを通じて問題を理解し対応を学ぶ 若年性認知症コーディネーター・認定社会福祉士 山口 敏伸 氏	1	17	R7.11.6
シーティング2・演習 ～スキルアップ編～ 現場での対応は？ ・実際の現場での対応例・実技や事例を通して学ぶ 佐賀県作業療法士会 川口 大貴 先生 実技指導者5名	1	29	R7.11.19
移動移乗 抱え上げない介護Ⅲ・演習 ～排泄動作編～ ・スタンディングマシーン等を使用した移乗動作を学ぶ 佐賀県リハビリテーション3団体協議会 作業療法士 本村 祐介 先生 実技指導者5名	1	24	R7.12.17
合 計	11 (12)	285 (258)	

()は令和6年度実績

⑦(1) 一般・福祉用具専門相談員指定講習

内容及び講師	回数	受講者(人)	実施日
53時間講習	1 (1)	16(12)	R7.11/15～12/14 土曜・日曜 5 週 9 日間

()は令和6年度実績

令和7年度 福祉用具専門相談員指定講習会日程表

日程	月日	曜日	カリキュラム時間	時間	科目名	講師等
1	11月15日	土	9:30～9:50		開会式	佐賀県在宅生活サポートセンター
			9:50～10:50	1.0	福祉用具の役割	株式会社クローバー 福祉用具専門相談員 松浦 康正
			10:55～11:55	1.0	福祉用具専門相談員の役割と職業倫理	株式会社クローバー 福祉用具専門相談員 松浦 康正
			11:55～12:55		昼食	
			12:55～14:55	2.0	介護保険制度等の考え方と仕組み	障害者生活支援センター長光園 園長 宮崎 一哉
			15:00～17:00	2.0	介護サービスにおける視点	障害者生活支援センター長光園 園長 宮崎 一哉
2	11月16日	日	9:00～11:00	2.0	住環境と住宅改修	医療福祉専門学校緑生館 作業療法士 寺崎 司
			11:05～12:05	1.0	福祉用具の特徴(排泄、入浴)	医療福祉専門学校緑生館 作業療法士 寺崎 司
			12:05～13:00		昼食	
			13:00～17:00	4.0	福祉用具の特徴(起居、移動、移乗、床ずれ、食事、更衣、整容、コミュニケーション、社会参加、その他)	佐賀県在宅生活サポートセンター 作業療法士 小池 保徳 センター職員
3	11月22日	土	9:00～12:00	3.0	福祉用具の特徴(起居、移動、移乗、床ずれ、食事、更衣、整容、コミュニケーション、社会参加、その他)	佐賀県在宅生活サポートセンター 作業療法士 小池 保徳 センター職員
			12:00～12:55		昼食	
			12:55～14:55	2.0	高齢者の日常生活の理解	医療福祉専門学校緑生館 作業療法士 内山 美枝子
			15:00～17:00	2.0	リハビリテーション	医療福祉専門学校緑生館 作業療法士 内山 美枝子
4	11月29日	土	9:00～12:00	3.0	からだところの理解 (加齢に伴う心身機能の変化の特徴)	株式会社ボンダグラフィックス 作業療法士 富永 美紀
			12:00～13:00		昼食	
			13:00～16:30	3.5	からだところの理解 (認知症の人の理解と対応、感染症と対応)	株式会社ボンダグラフィックス 作業療法士 富永 美紀
5	11月30日	日	9:00～12:00	3.0	福祉用具の供給とサービスの仕組み	(株)太平 タイヘイM&C 福祉用具プランナー 馬場 亮太
			12:00～13:00		昼食	
			13:00～14:30	1.5	福祉用具の安全利用とリスクマネジメント	(株)太平 タイヘイM&C 福祉用具プランナー 馬場 亮太
			14:35～16:35	2.0	介護技術	佐賀県在宅生活サポートセンター 介護福祉士 中西 美枝子 センター職員
6	12月6日	土	9:00～11:00	2.0	介護技術	佐賀県在宅生活サポートセンター 介護福祉士 中西 美枝子 センター職員
			11:00～12:00		オリエンテーション(修了評価について)	佐賀県在宅生活サポートセンター
			12:00～13:00		昼食	
			13:00～17:00	4.0	福祉用具の活用(演習)	医療福祉専門学校緑生館 作業療法士 島ノ江 寿
7	12月7日	日	9:00～12:00	3.0	福祉用具の活用(演習)	医療福祉専門学校緑生館 作業療法士 島ノ江 寿
			12:00～12:55		昼食	
			12:55～13:55	1.0	福祉用具の活用(演習)	医療福祉専門学校緑生館 作業療法士 島ノ江 寿
			14:00～17:00	3.0	福祉用具による支援プロセスの理解・福祉用具貸与計画等の作成と活用	(株)太平 タイヘイM&C 福祉用具プランナー 山口 国高
8	12月13日	土	9:00～12:00	3.0	福祉用具による支援プロセスの理解・福祉用具貸与計画等の作成と活用	(株)太平 タイヘイM&C 福祉用具プランナー 山口 国高
			12:00～13:00		昼食	
			13:00～17:00	4.0	福祉用具による支援プロセスの理解・福祉用具貸与計画等の作成と活用	(株)太平 タイヘイM&C 福祉用具プランナー 山口 国高
9	12月14日	日	9:30～10:30		終了評価	佐賀県在宅生活サポートセンター
			11:30～12:00		修了式(修了書交付)	佐賀県在宅生活サポートセンター

⑦ (2)一般・リフトリーダー養成研修

内容及び講師	回数	受講者(人)	実施日
リフト等の使用に関し指導的役を担う人材の養成 コネクトリハビリテーション 代表 (NPO 福祉用具ネット理事) 作業療法士 山形 茂生 先生	1(1)	24(24)	R8.2/14～2/15 土曜・日曜 2日間

()は令和6年度実績

リフトリーダー養成研修 日程表

【第1日：令和8年2月14日（土）】

時間	科目	内容
9:00～9:05	オリエンテーション	
9:05～10:35 (90分)	リフトリーダーと 助成金制度	○リーダーとしての役割と心構え ○各種講習と考え方 ○助成金制度の概要とポイント ○腰痛予防対策チェックリストの活用
10:45～12:15 (90分)	腰痛の原因と対策	○介護者の腰痛発生状況とその原因 ○腰痛予防に関連する法令、指針など ○腰痛予防対策 ○労働衛生管理のすすめ方 ○機器導入効果の検証方法
12:15～13:15	昼食・休憩	
13:15～16:15 (180分)	介護作業とリフト	○抱え上げない介護の有用性 ○スライディングシート・ボードの特徴 ○吊具の種類と特徴 ○リフトの種類と特徴 ○介護作業のアセスメント ○次回実技の概要説明

【第2日：令和8年2月15日（日）】

時間	科目	内容
9:00～16:00 (360分) (昼休憩 60分含む)	移乗関連用具指導法	○リフト等の使い方 ○リフト等の指導法 ○機種別（選択）実技 ○個別相談

令和7年度
令和7年4月～令和8年3月迄

講座アンケート集計結果

- ・リハビリ工房（自助具製作講座）
- ・一般県民対象講座
- ・地域包括向け講座
- ・シニア講座
- ・ジュニア講座（中高生）見学のみ
- ・ジュニア講座（中高生）高齢者疑似体験のみ
- ・ジュニア講座（中高生）見学・高齢者疑似体験
- ・ジュニア講座（小学生） 高齢者疑似体験のみ
車いす体験・ユニバーサル講座
車いす体験+高齢者疑似体験
見学のみ
- ・企業団体 見学のみ
- ・企業団体 高齢者疑似体験のみ
- ・企業団体 見学・高齢者疑似体験
- ・地域リーダー講座
- ・専門職向け講座

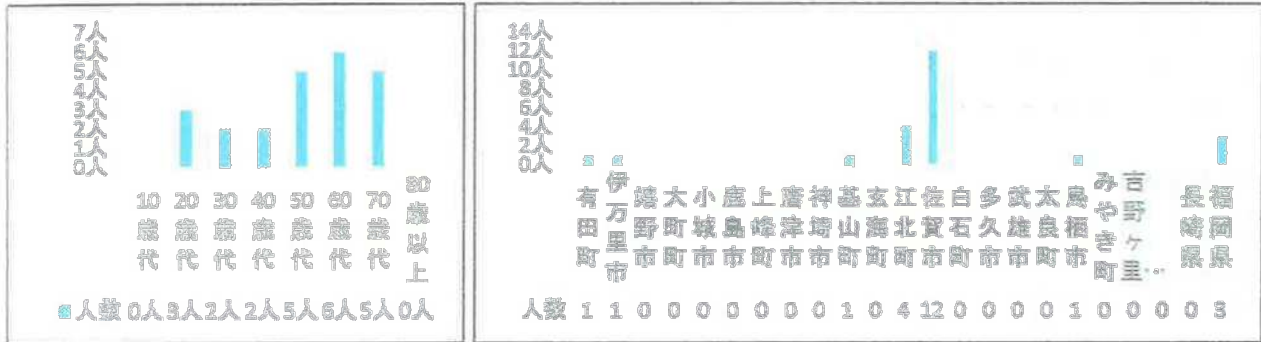
令和7年度「リハビリ工房（自助具制作講座）」

令和7年4月～令和8年3月

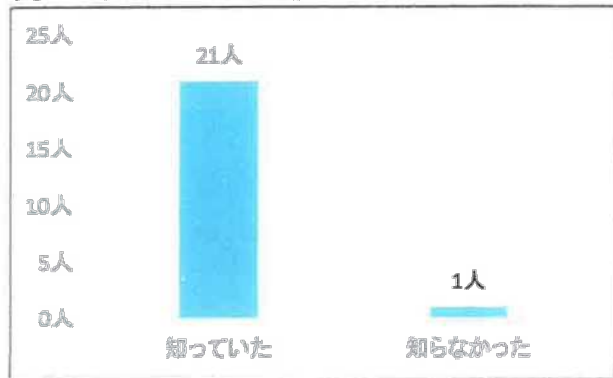
【注】アンケートの年代・性別・住所・問1-5は未回答の場合もあります。

アンケート回答者 23人

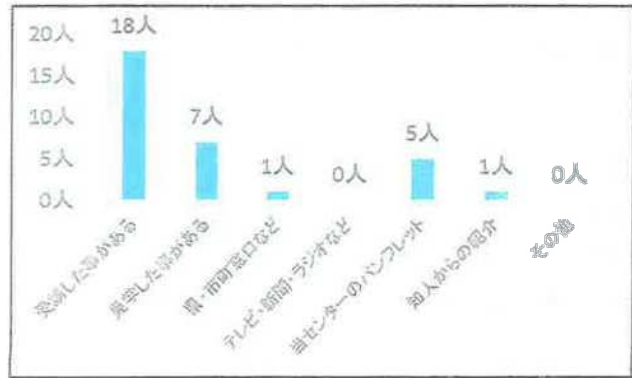
<受講者の年代・性別・住所別 状況>



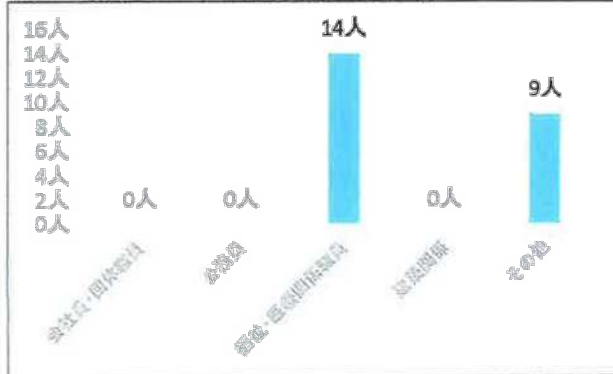
問1 当センターのことを知っていましたか。



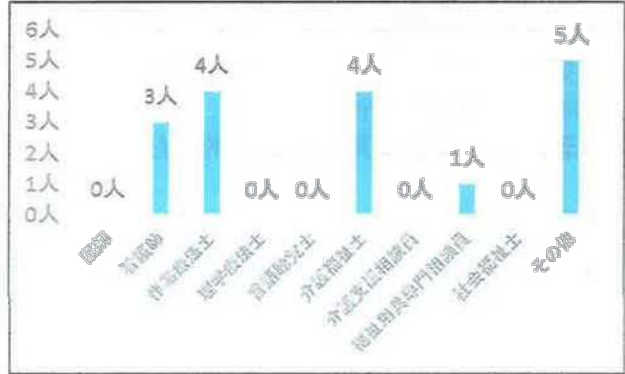
問2 当センターをどこで知りましたか。



問3 職業についてお答えください。

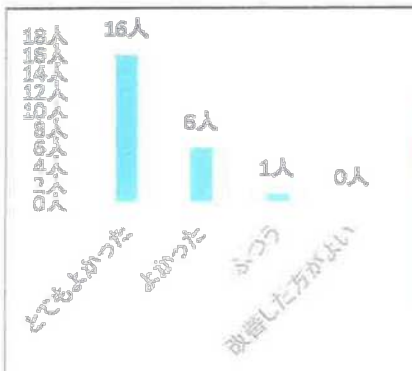


問4 資格をお持ちの方はご記入ください。

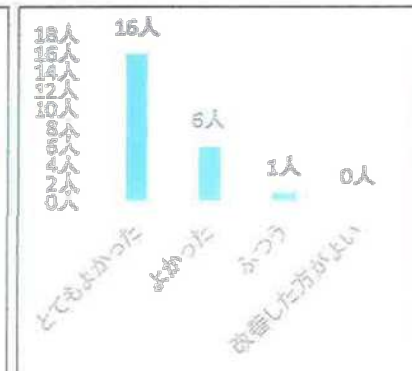


問5 今回受講された講座の各項目について該当するものに○を付けて下さい。

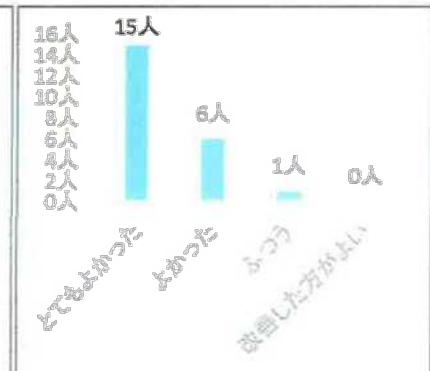
(1) 講師について



(2) 講義内容について



(3) 資料について



令和7年度 感想 リハビリ工房(自助具作成講座) R7年4月～R8年3月

問5 (1)講師について

- ◎分かりやすく教えていただいた。
- ◎作業療法士の方で、いろいろ補助してくださり良かった。
- ◎話がとても面白く、文字盤について分かりやすい説明だった。
- ◎親切に教えていただきました。

問5 (2)講義内容について

- ◎片麻痺の方でも、活用できる内容だったので勉強になった。
- ◎楽しい講座でした。
- ◎実用的だった。

問5 (3)資料について

- ◎作るときの参考になった。
- ◎2番目の製作がむずかしく手間取りました。
- ◎わかりやすかった。
- ◎大変だった。

問6 今後どのようなものを作りたいですか。

- ◎文字盤
- ◎簡単、安価な自助具(食卓)、くつ下自助具
- ◎くつべら付きくつぬぎ
- ◎入居者が簡単に楽しめるような物を作りたい。

問7 今後どのような講座を受けてみたいですか。

- ◎机上でできるような、レクリエーションを知りたい。
- ◎同じような自助具関係あれば。
- ◎生活に活かせる高齢者用の道具を作りたい。

問8 ご意見・ご要望

- ◎とても楽しかった。

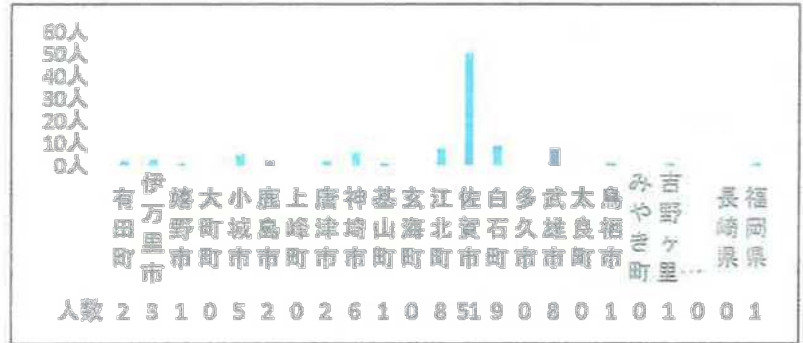
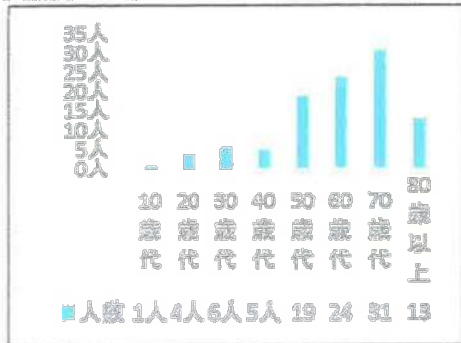
令和7年度「一般講座」

令和7年4月～令和8年3月

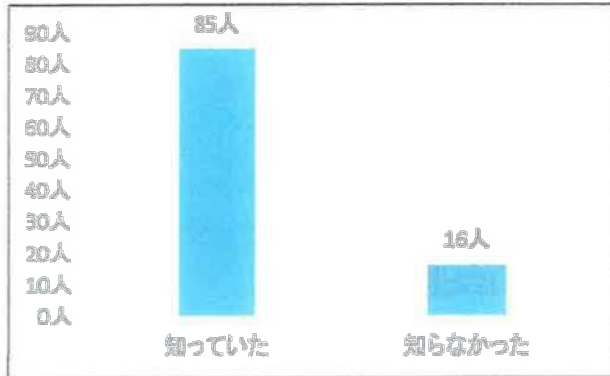
【注】アンケートの年代・性別・住所・問1-5は未回答の場合もあります。

アンケート回答者 98人

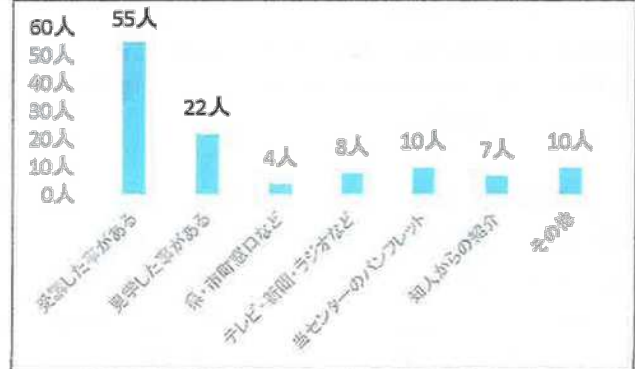
<受講者の年代・性別・住所別 状況>



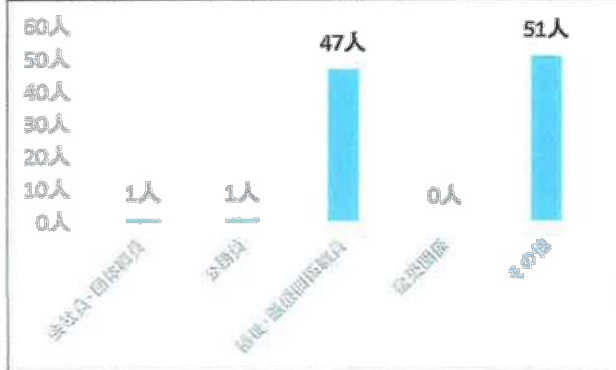
問1 当センターのことを知っていましたか。



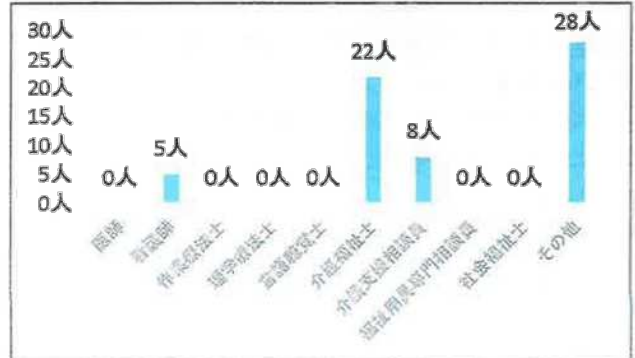
問2 当センターをどこで知りましたか。



問3 職業についてお答えください。

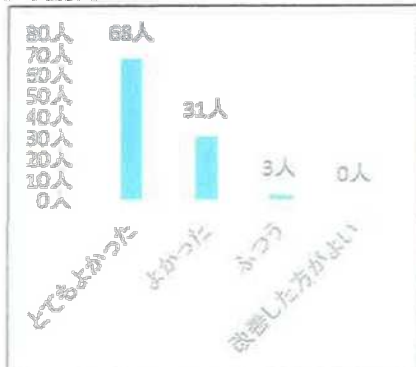


問4 資格をお持ちの方はご記入ください。

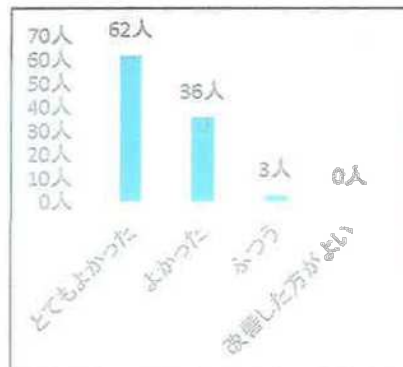


問5 今回受講された講座の各項目について該当するものに○を付けて下さい。

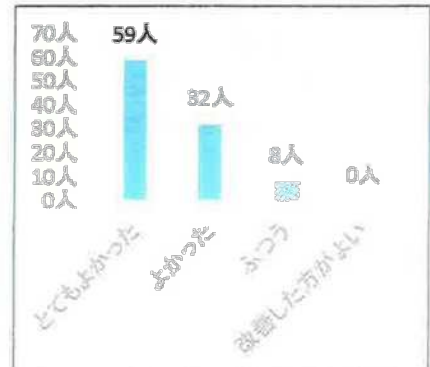
(1) 講師について



(2) 講義内容について



(3) 資料について



問5 (1)講師について

- ◎親しみやすく、聞きやすかった。
- ◎説明が、とても丁寧で良かった。
- ◎楽しく進行していただいた。
- ◎私達に合わせて進めてくれた。
- ◎話している内容が、とても聞き取りやすく引き込まれる内容だった。

問5 (2)講義内容について

- ◎分かっているけど、深い知識が必要だと思った。
- ◎口腔ケアは大事だと思った。
- ◎身近な材料、タオルでできる体操や脳トレが良かった。
- ◎介護の生産性の意味が分かった。
- ◎職員教育や業務の取り組み方など参考にしたいと思った。
- ◎介護業界でもAIが使用され進歩している。記録の負担はかなり大きいと感じられる。
- ◎嚥下について理解した。

問5 (3)資料について

- ◎利用者様にも案内しやすい資料もあり、良かった。
- ◎写真付きで分かりやすかった。利用者の方に伝えることができればと思う。
- ◎AIで作成されている部分があるとは思えない内容で良かった。
- ◎たくさんの商品を準備して下さって、具体的にとても分かりやすかった。

問6 今後どのような講座を受けてみたいですか。

- ◎認知症の方や、介護拒否される方への対応。
- ◎在宅での食事について。
- ◎いろいろなレクリエーションを是非教えてほしい。
- ◎コミュニケーション手法。
- ◎シーティング。
- ◎車いすで出来るレクリエーション。
- ◎ロコモ予防体操。

問7 ご意見・ご要望

- ◎ゲーム的なレクリエーションを勉強したい。
- ◎楽しく学べた。住民の皆様に、お伝えしたい。
- ◎大笑いして、いい運動になった。
- ◎AIを活用し、本来やるべき専門職業業務時間が拡大するという言葉が心に刺さった。
- ◎自分の施設でやるべきことが見えた。
- ◎新しい発見が、数多くあった。これからも発信してほしい。

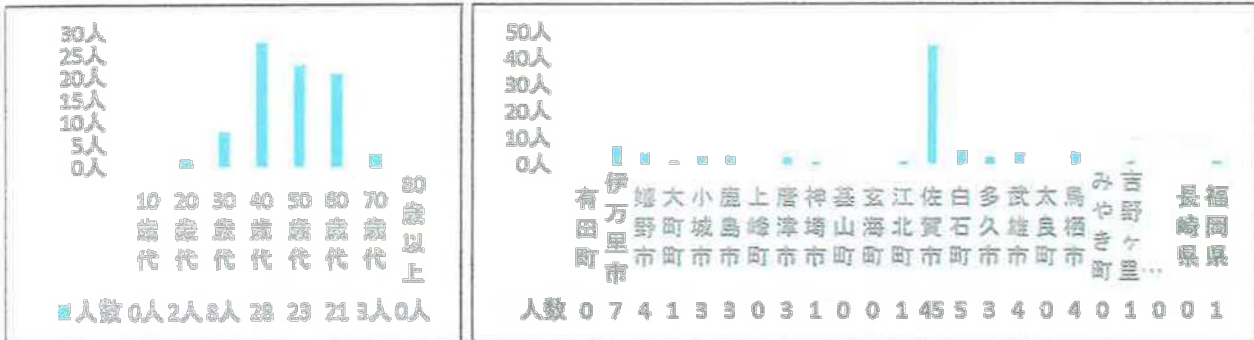
令和7年度「地域包括向け講座」

令和7年4月～令和8年3月

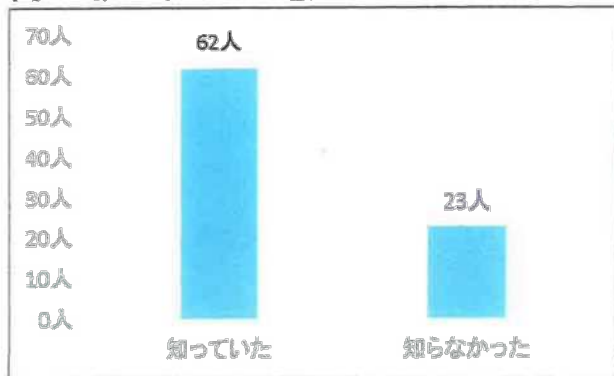
【注】アンケートの年代・性別・住所・問1-5は未回答の場合もあります。

アンケート回答者 87人

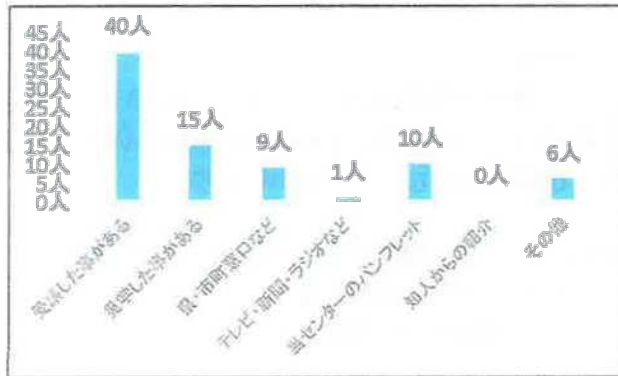
<受講者の年代・性別・住所別 状況>



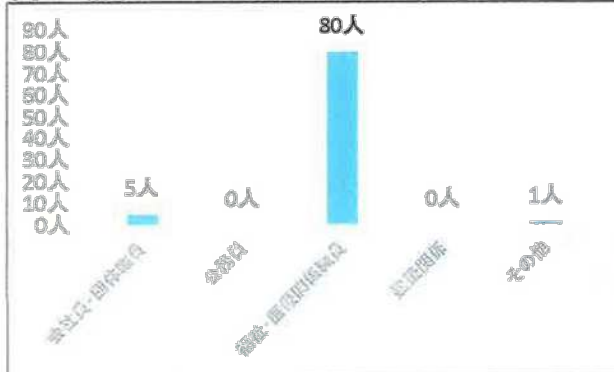
問1 当センターのことを知っていましたか。



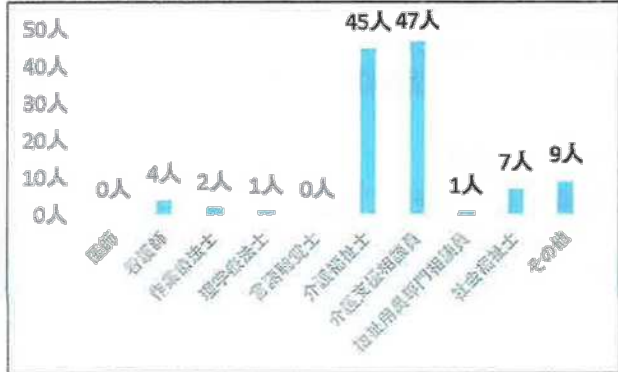
問2 当センターをどこで知りましたか。



問3 職業についてお答えください。

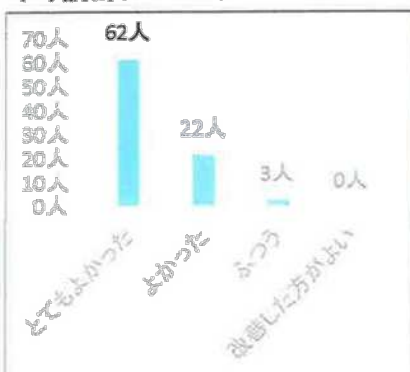


問4 資格をお持ちの方はご記入ください。

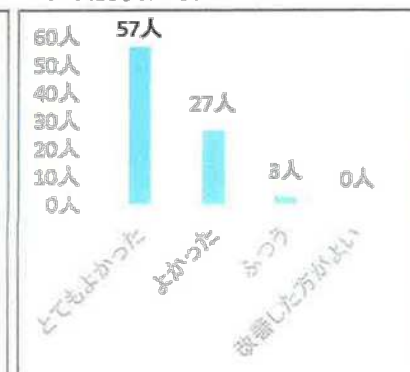


問5 今回受講された講座の各項目について該当するものに○を付けて下さい。

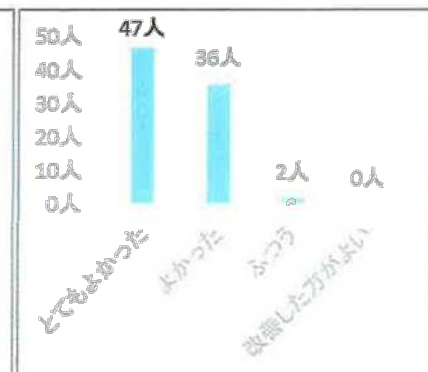
(1) 講師について



(2) 講義内容について



(3) 資料について



問5 (1)講師について

- ◎話が聞きやすく分かりやすかった。
- ◎興味の引かれる話し方で内容を盛り込まれていた。

問5 (2)講義内容について

- ◎福祉用具について理解できた。
- ◎職員教育や業務の取り組み方など参考にしたい。
- ◎生産性向上について、AIを学ぶことができた。AIだけでなく、手段目的が大切だと感じた。
- ◎今、悩んでいたことについての対策・方法を知り、新しい情報を聞いた。
- ◎演習がリアルで面白く、想像ができた。
- ◎福祉用具や住宅改修のポイントが良く分かった。

問5 (3)資料について

- ◎いろいろな事例が写真付きで分かりやすかった。パワーポイントが見やすかった。
- ◎AIで作成されている部分があるとは思えない内容で良かった。
- ◎表形式で整理されていて、分かりやすい。

問6 今後どのような講座を受けてみたいですか。

- ◎口腔ケアの必要性の研修を増やしてほしい。
- ◎生産性向上の職員向け講座。
- ◎シーティング。
- ◎レクリエーションに苦手意識を持っている職員が多いので、講座をお願いしたい。
- ◎症例別で、自立支援について学びたい。
- ◎対人援助のメンタルケア。
- ◎コミュニケーション、聞き取りの仕方につて。

問7 ご意見・ご要望

- ◎福祉用具を見学できて、勉強になりました。
- ◎今後、生産性の取り組みをしていかなければならず、試行錯誤しそう。
- ◎作業療法士からの視点を伺うことがあまりないので、勉強になった。

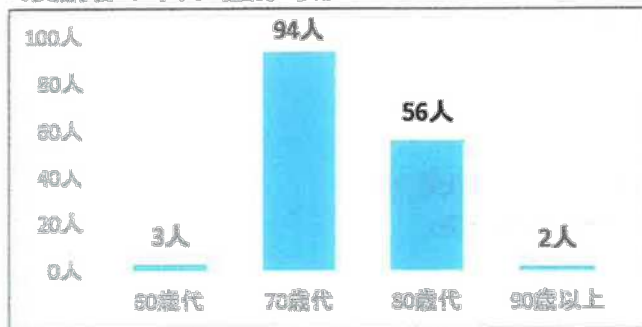
令和7年度「シニア講座」

令和7年4月～令和8年3月

【注】アンケートの年代・性別・問1-3は未回答の場合もあります。

アンケート回答者 163人

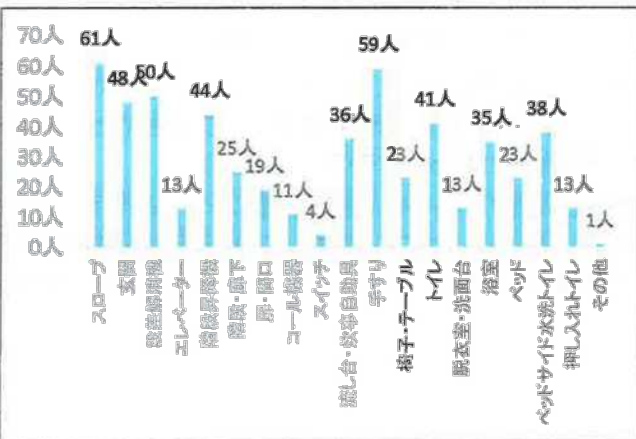
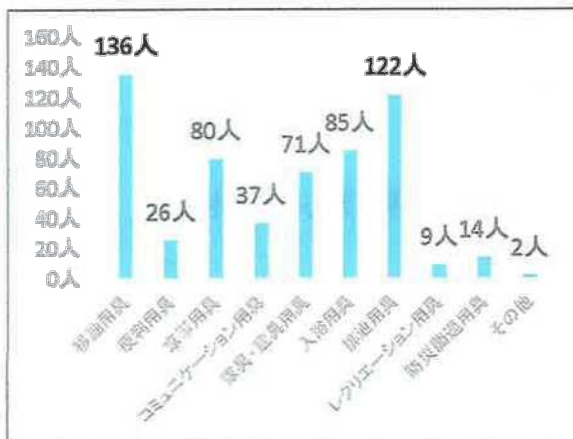
＜受講者の年代・性別・状況＞



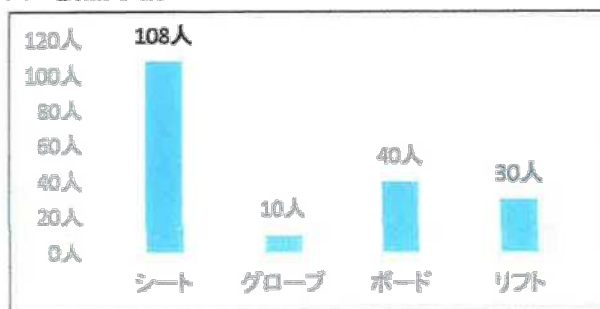
問1 在宅生活サポートセンターの見学で参考になったものは何ですか。 ※複数回答可

(1) 福祉用具展示室

(2) バリアフリーモデル住宅



(3) 腰痛予防

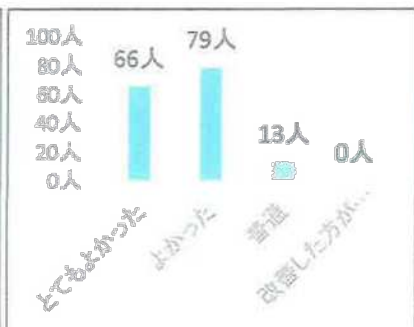
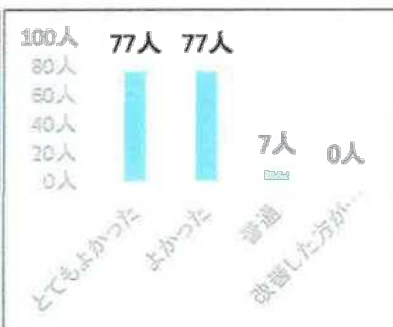
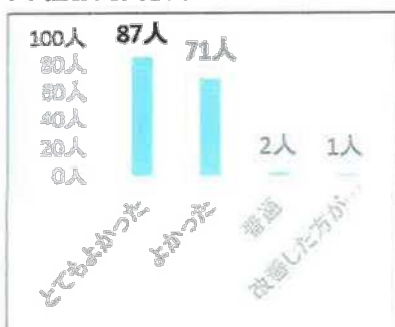


問2 今回見学された各項目について、該当するものを

(1) 福祉用具展示室について

(2) バリアフリーモデル住宅について

(3) 資料について



問5 ご意見・ご要望・感想など

- ◎見たこともない介護用品や道具があり、とても参考になった。
- ◎今後の参考になった。
- ◎最後の指の運動は大変楽しく、脳トレに活用したい。
- ◎介護用品の種類が多くて参考になった。
- ◎バリアフリーを考えて家を建てたが、もう少し勉強していたらよかった。
- ◎現在、まだ必要を感じないが、知っておくことが大切だと思った。
- ◎老人クラブで見学に来たい。
- ◎地区に帰ったら、皆様にお知らせしたい。
- ◎福祉用具のレンタルの種類が多くなり、身体的にも経済的にも介護が楽になった。
- ◎高齢者が多くなる現状、今から必要なことだと実感した。
- ◎いろいろな介護用品を見れて良かった。
- ◎ぐーちょきぱ体操が、とても面白かった。
- ◎日常生活に役立つ、箸・皿・スプーンを今からでも使用したいと思った。
- ◎脳トレが良かった。地区老人クラブでもやってみたい。
- ◎大変勉強になった。普及してほしい。
- ◎福祉用具のレンタル種類が多くなり、20年前に比べると、楽に介護できるようになった。
- ◎今後、他の人々にも体験していただける機会を作してほしい。
- ◎大変参考になったので、老人クラブ定例会で説明したい。

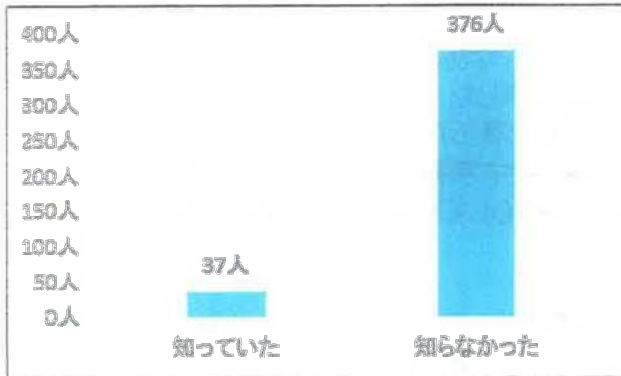
令和7年度「ジュニア中高生 見学」

令和7年4月～令和8年3月

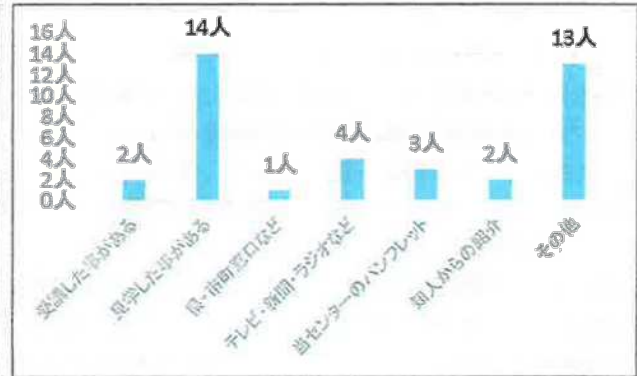
【注】アンケートの年代・性別・問1-4は未回答の場合もあります。

アンケート回答者 415人

問1 当センターのことを知っていましたか。

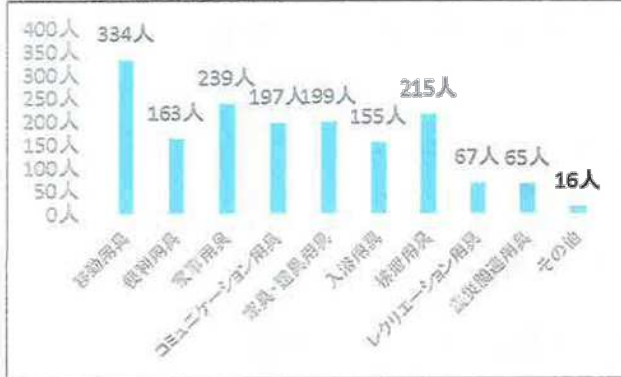


問2 当センターをどこで知りましたか。



問3 参考になったものは何ですか。 ※複数回答可

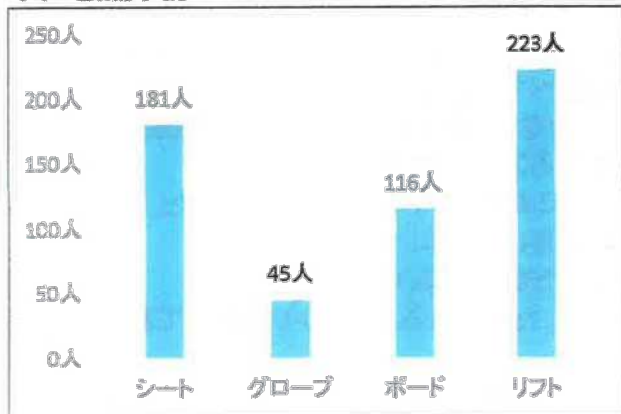
(1) 福祉用具展示室



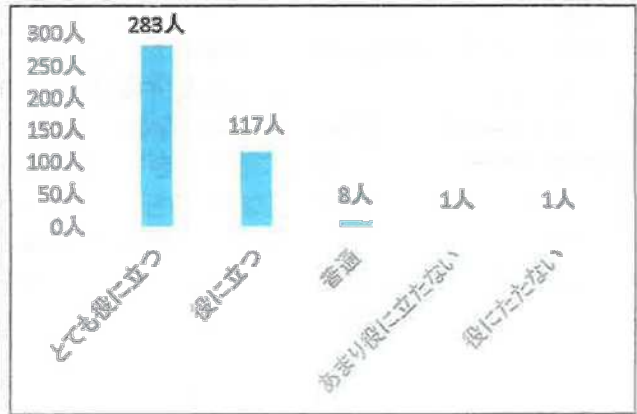
(2) バリアフリーモデル住宅



(3) 腰痛予防



問4 今回受講されたことで、今後の役に立つと思いますか。



*ご意見・ご要望

◎いろんな体験ができて、楽しかった。

◎とても勉強になった。

◎これだけ便利なものがあると、介護する人・される人も楽だなあと思った。

◎体が不自由な人が、便利で役に立つ道具がたくさんありました。

◎リフト・段差解消機・階段昇降機・折りたたみ杖など印象に残った。

◎スロープや歩行器・車いすなど、段差をなくすことの大切さを実感した。スロープの緩やかな傾斜や、使いやすさを考えた道具の配置など、利用者が安心して生活できる工夫が多く、バリアフリーの重要性を改めて感じた。

◎住宅や介護用品に様々な工夫がされており驚きだった。

◎祖父が片麻痺なので、こういうアイテムが知れて、参考になった。

◎高齢者が過ごしやすいよう、こういう施設が広まるといいなと思った。

◎今日の見学を通して大人になっていく上で、重要な福祉について学べて良かった。

◎テクノロジーを使った技術が進歩し、未来は今よりも、もっと楽になるのではと思った。特に歩行器では、歩いた距離を記録して、危ないときにしっかり止まることができました。

◎初めてリフトに乗って、すごく楽に移動をすることができ、使い方も知れた。住環境コーディネーターの試験に合格できるよう頑張りたい。

◎高齢者や障害者の方との接し方について、学びたい。

◎ユニバーサルデザインについて知れて、とても楽しかったです。

◎たくさん体験できたし、役立つ知も得られて楽しかったです。

◎自分の知らなかった便利な道具を知ることができた。

◎普段あまり見れないものが見れたのでよかったです。介護は身近なものなのでとても興味深かったです。

◎身近なものでも、少し工夫を加えることですべての人が使いやすくなることを知れて、驚いたし嬉しかったです。これから社会に出た際に人を思いやれるデザインを考えていきたいと思いました。

◎実際に使うことがあるかもしれないので、また利用したいと思いました。

◎実際に道具や機械を触って体験したことで、どんな工夫がされているのかを知れた。将来の自分のためにも、今からたくさん住宅や道具の工夫を調べていきたい。

◎これからの時代、介護をする側になることも知っておかないと困ると思うので、この機会にその道具や内容について知ることができて、具体的に考えることができました。

◎私は今、体が少し不自由なおばあちゃんと生活しているので、とてもためになりました。時に声が聞こえないことが辛そうなので、骨伝導の補聴器は良いなと思いました。

◎初めて見るものが多かったけれど、こんなに便利なんだなと思いました。

◎お忙しい中、お時間をいただきありがとうございました。ためになることばかりで覚えておこうと思いました。

◎介助する人、される人、どちらも使いやすいバリアフリーがあると知りました。お互いが笑顔になれると思いました。

◎みんなが暮らしやすいような工夫をたくさん知ることができて勉強になりました。安全で快適な暮らしは住居の工夫、家具の工夫がとても大切だと思いました。

◎自分が将来年を取った時に安心して生活できることを知って、今のうちから心配せずに生活できるなと思った。

◎私が将来年を取った時のことや、また誰かを介護する時などにどのようなものがどんな目的で使えるのか考える機会になった。

今知することで、自分や周囲の人々がいざという時に助けることができると思った。

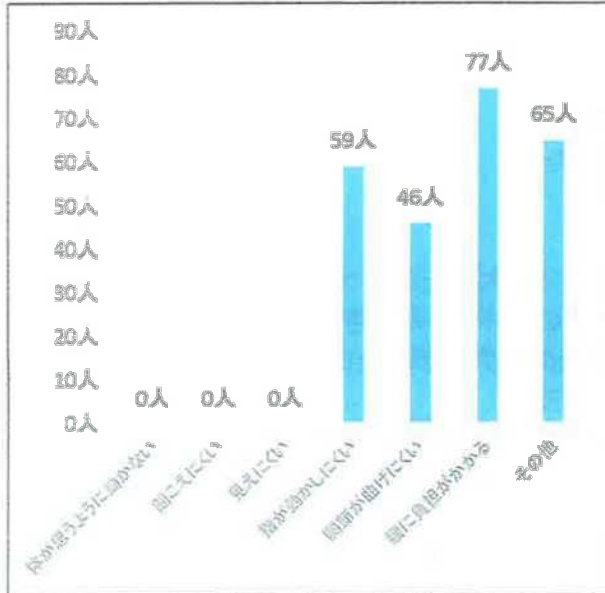
令和7年度「ジュニア中高生・疑似」

令和7年4月～令和8年3月

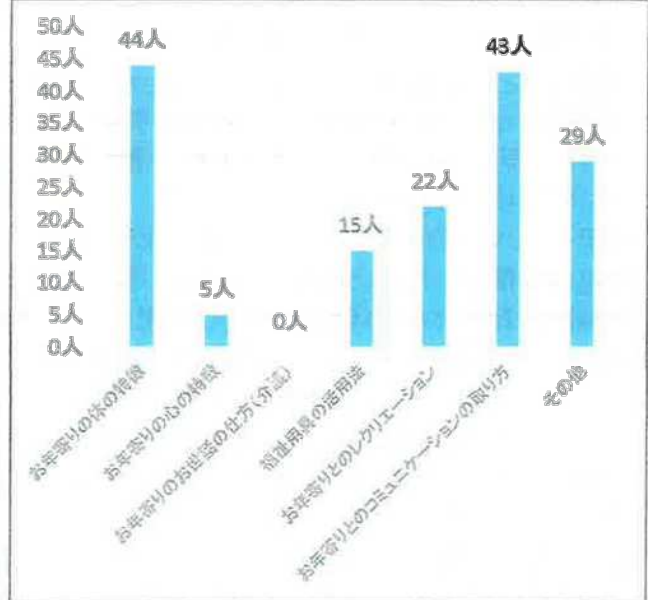
【注】アンケートの性別・問1-3は未回答の場合もあります。

アンケート回答者 90人

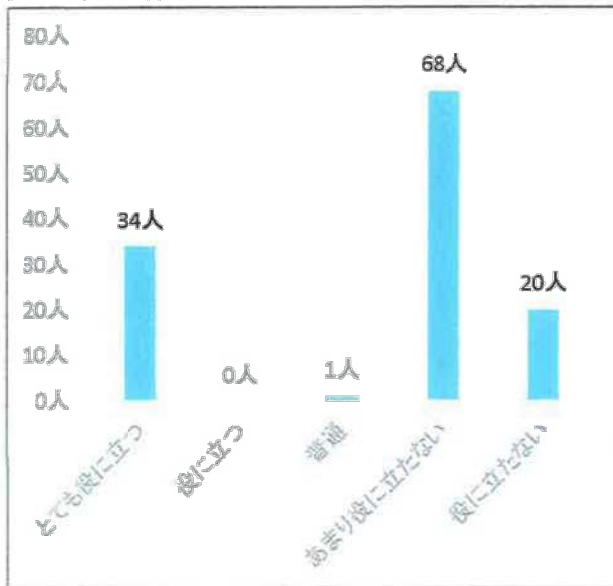
問1 この体験で大変だと感じたのは、どのようなことでしたか



問2 今後受けてみたい講座・体験は何ですか。(2つ選択)



問3 今回受講されたことで、今後の役に立つと思いますか。



*ご意見・ご要望

- ◎体を動かしにくく、初めて高齢者さんの気持ちが分かった。
- ◎案内などで、高齢者を安心させることができると思った。
- ◎高齢者がどんな生活をしているのか知ることができた。
- ◎特に、見えにくい聞こえにくいのが一番大変だと思った。
- ◎お年寄りの大変さが改めて分かった。
- ◎困っている方がいたら、助けてあげようと思った。
- ◎短い時間でもすごく大変だったので、普段の生活はもっと大変だと思った。
- ◎高齢者は体や心の負担が大きいと思うので、高齢者のサポートができるように頑張りたい。
- ◎祖父と祖母を大切にしたいと思った。お年寄りの世話の仕方も学びたい。
- ◎とても分かりやすく、高齢者の気持ちを味わうことができた。
- ◎私は将来、医療系の仕事に就きたいと考えているので、将来の夢の参考に役だった。
- ◎高齢者が、どんな世界で生活しているのかを知ることが出来て良かった。
- ◎体が思うように動かず、大変だった。
- ◎お年寄りが困っている時は、迷わず声をかけ、助けることが大事だと思った。
- ◎高齢者は体や心の負担が大きいと思う。サポートができるように頑張りたい。
- ◎今回学んだ事を通して高齢者とのかかわり方について、もう一度考えたい。

令和7年度「中高生(疑似・見学)」

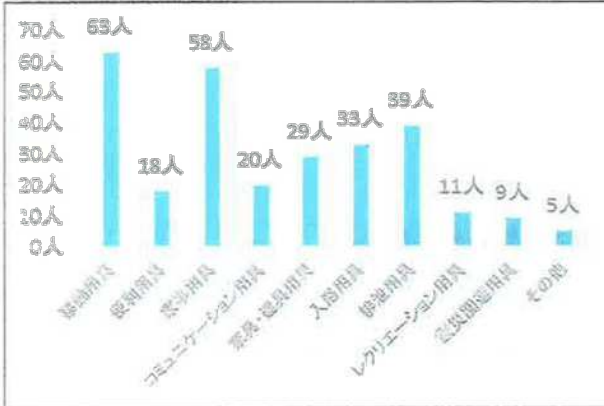
令和7年4月～令和8年3月

【注】アンケートの性別・問1-3は未回答の場合もあります。

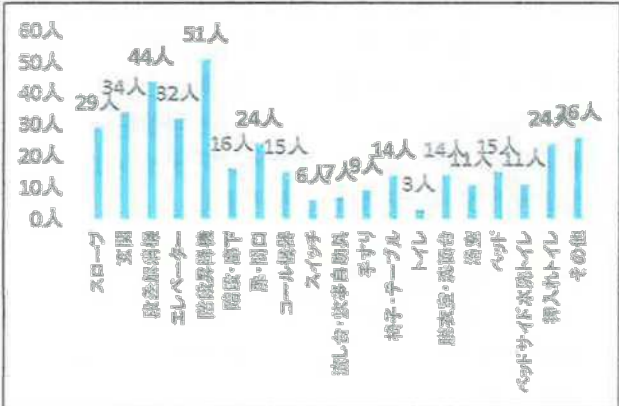
アンケート回答者 76人

問1参考になったものは何ですか ※複数回答可

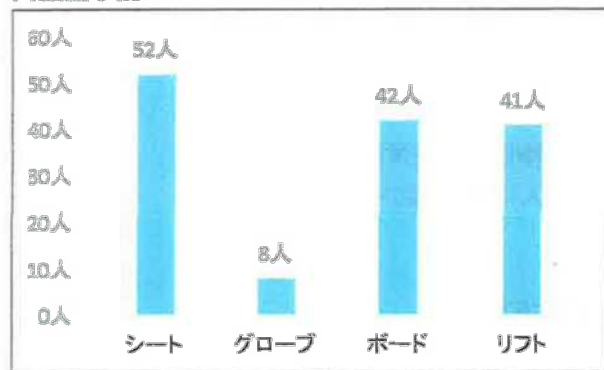
(1)福祉用具展示室



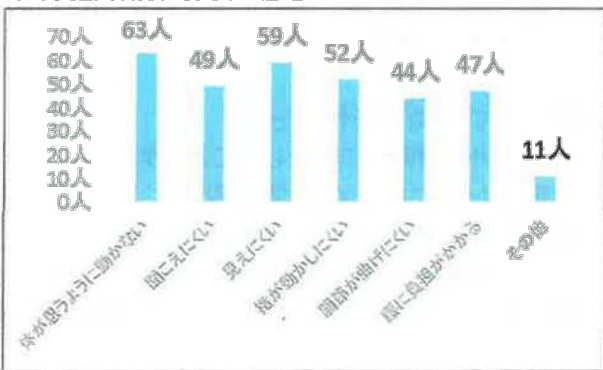
(2)バリアフリーモデル住宅



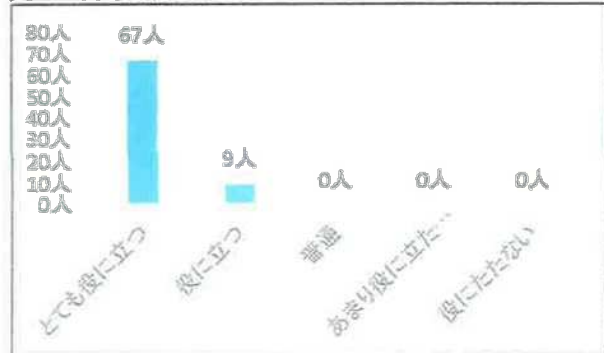
(3)腰痛予防



(4)高齢者疑似体験の感想



問2 今回受講されたことで、今後の役に立つと思いますか



* 今後どのような講座を受けてみたいですか。

- ◎高齢者体験で、買い物をしたい。
- ◎色々なレクリエーションを知りたい。
- ◎たくさんの道具の使い方を知れる講座。
- ◎利用者に適した道具を作る体験をしたい。
- ◎高齢者の生きがいになるような活動を知りたい。
- ◎他にどのようなユニバーサルデザインがあるのか知りたい。
- ◎高齢者の一日の生活を知りたい。
- ◎利用者の立場になって、もっと暮らしやすくなるような道具を作りたい。
- ◎障害者用の福祉用具を見てみたい。
- ◎高齢者の方の感覚など、今まで考えたこともなかったので、良い体験になった。
- ◎実際に体験してみて、高齢者の体の特徴について、より深く知る事が出来た。
- ◎視野が狭くなり見えにくかった。

問4 ご意見・ご要望

- ◎握みやすい鉛筆を作りたい。
- ◎コンセントが静かに発火したことを気づくことが出来る物がありますか。
- ◎今日はためになるような話を聞けて良かった。様々な人に寄り添いたい。
- ◎施設の人が優しく教えて下さり、楽しく学べた。
- ◎これから高齢化社会になるので、役立てたい。
- ◎高齢者になってみて楽ではなかった。高齢者の方を支えたい。

令和7年度「ジュニア小学生(疑似)」

令和7年4月～令和8年3月

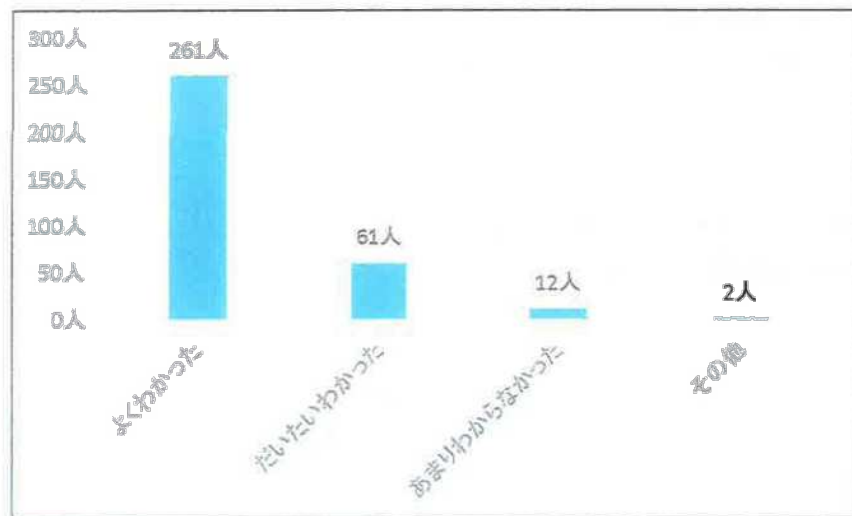
【注】アンケートの性別・問1-2は未回答の場合もあります。

アンケート回答者 340人

問1 おとしよりの体になって、たいへんだと感じたのはどこですか。



問2 おとしよりの気持ちと体のことがわかりましたか。



* 感じたことや、もっと知りたいこと

- ◎80歳のおじいちゃんおばあちゃんの体験は、きついと初めて知った。
- ◎高齢者はとて大変だと思った。困っている方がいたら、一言声掛けたいと思った。
- ◎お年よりの過ごし方を知りたい。
- ◎お年よりの人は目が見えにくくなったりして、歩くのさえ難しいと感じた。
- ◎歯がない人は、どうやって食べるんですか。
- ◎お年よりは、大変だと分かった。
- ◎感じたことは体が重くなることで、もっと知りたいのは杖をつくと、どれだけ楽になるのか。
- ◎おじいちゃんたちが、手を後ろにして歩く理由が分かった。
- ◎腰がとても痛くて大変だと思った。途中で椅子に座った。
- ◎肘、膝が動かしにくかったり、曲げにくくてお年寄りになったら大変だと思った。
- ◎前が向けなくて、大変だった。
- ◎これからは、お年寄りの気持ちを考えてみようと思った。
- ◎箸を持ったり豆をとったりするのが難しいんだなと思った。
- ◎ずっと立っていたら腰が痛くなった。
- ◎高齢者は、他に何が困っているのか気になった。
- ◎お年よりはこんなに大変な事を毎日していると分かりました。
- ◎認知症に、どうやってなるのか知りたい。
- ◎お年寄りと話ときは、声の大きさ、ゆっくりさ、笑顔で接する。
- ◎お年よりになったら大変なことが分かったし、困った人がいたら助けてあげたい。
- ◎一人ではできないことがいっぱいだった。
- ◎お年寄りの便利な道具が知れた。
- ◎友達が助けてくれて嬉しかった。
- ◎高齢者は腰が痛くても、自分一人で杖を使うだけで歩いて、すごいなと思った。
- ◎お年寄りの腰が痛いのは、どんな痛みなの体験して、よく分かった。
- ◎荷物を持ってあげたり、優しくしたい。
- ◎手助けする人も大変。
- ◎腰が痛い人は、いろいろ不自由だけど、椅子があれば座ることができると分かった。
- ◎こんなにお年寄りやおじいちゃん、おばあちゃんが大変だと思わなかったから、お手伝いをもっとしようと思った。
- ◎正座をした時、ひざの後ろが痛かった。
- ◎歩きにくかったです。目が見えにくかったです。
- ◎手足が思ったより動かなくてびっくりした。
- ◎今は、普通に文字を書けているけど、体験をしてお年寄りの人は字を書くのも難しいとわかりました。
- ◎お年寄りの体は手も動かしにくくて大変だと知ったので、次からお年寄りの方を見たら助けてあげたいと思ったし、次は体の不自由な人の体験をしたいです。
- ◎おじいちゃんやおばあちゃんは、いつもこんな感じにいるから、困っていたら手伝いたいです。
- ◎紙に何か書く時、難しいと分かった。お年寄りになると目が見えにくくなると知った。
- ◎はしを持つ時、字を書く時、いろいろな時に使えるもの、例えばスロープ、スプーン、エレベーターとかあればみんなも使いやすくなる。今日ははしと階段とか難しかったです。

令和7年度「ジュニア小学生(車いす)」

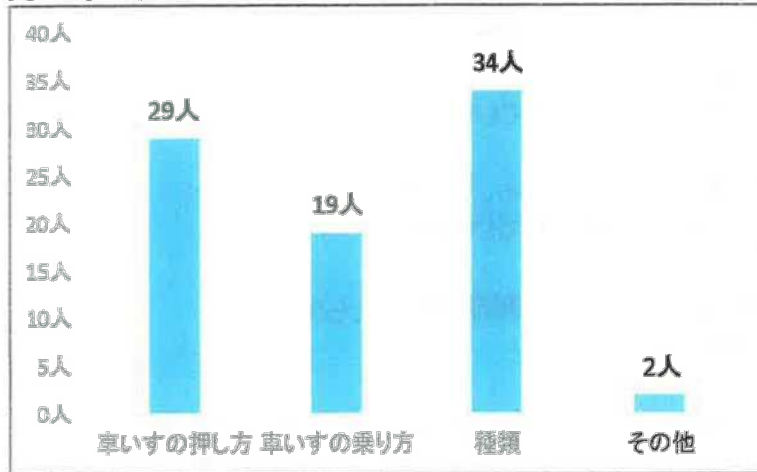
令和7年4月～令和8年3月

【注】アンケートの性別・問1-2は未回答の場合もあります。

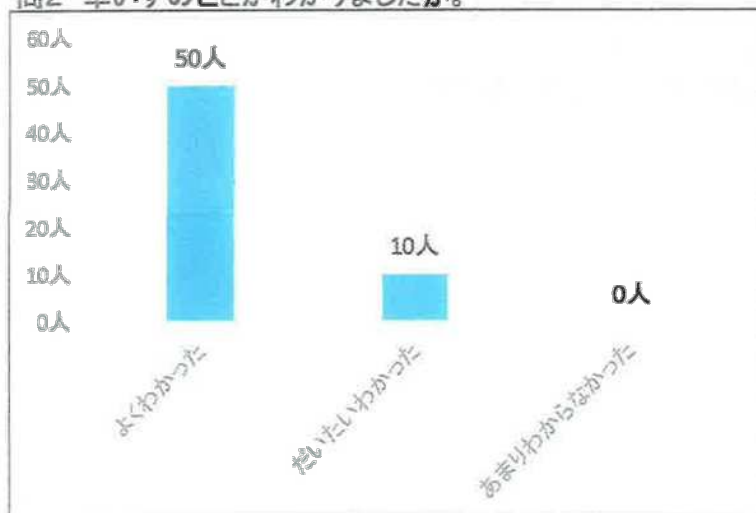
アンケート回答者

60人

問1 車いすについてどのような所に興味をもちましたか？



問2 車いすのことがわかりましたか。



* 感じたことや、もっと知りたいこと

- ◎車いすを自分で動かしていると疲れた。押すのと自分で動かすのは違う気持ちになった。
- ◎最初は楽しかったけど、ずっとタイヤを回すのは大変だなと思った。
- ◎買い物の時に、商品に手が届かなかった。
- ◎ブレーキをかけないと、乗る時に後ろや前に行ってしまう。
- ◎車いすの種類をもっと知りたい。
- ◎段差で困っていたら助けたい。手動だと疲れたから、その気持ちも分かった。
- ◎車いすを使っている人が家ではどのように過ごしているのか。
- ◎車いすの形が何種類あるのか。
- ◎車いすの座り方や降り方が分からなかったけど、説明を聞いたら分かった。
- ◎足が不自由な人にとって、大事なものだと思った。
- ◎車いすを漕ぐのも興味を持てた。
- ◎車いすで段差を乗り越えることが出来なかったけど、他の人と協力すれば出来た。
- ◎車いすに乗る人は、遠くのものや高いところにあるものが取れないので大変だなと思った。
- ◎電動車いすについてもっと知りたい。
- ◎車いすは色々な性能や特徴・形をもっているんだなあと思った。
- ◎足が不自由な人にとって、大事なものだと思った。
- ◎車いすの人が飛行機で旅行する時はどうやるのか知りたい。
- ◎車いすバスケはすごいなあと思った。

令和7年度「ジュニア小学生(UD)」

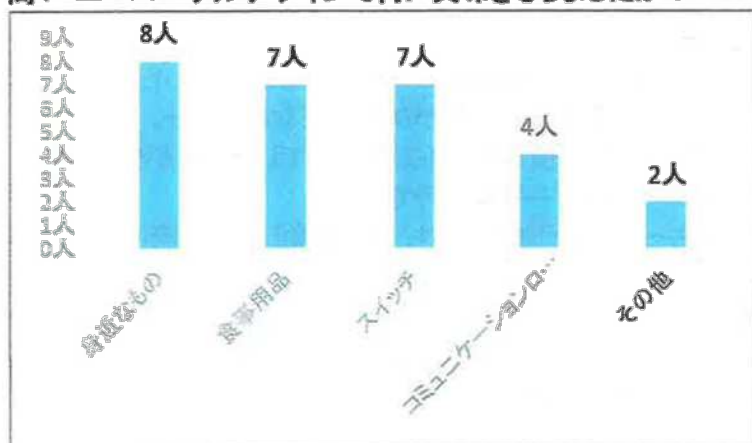
令和7年4月～令和8年3月

【注】アンケートの性別・問1-2は未回答の場合もあります。

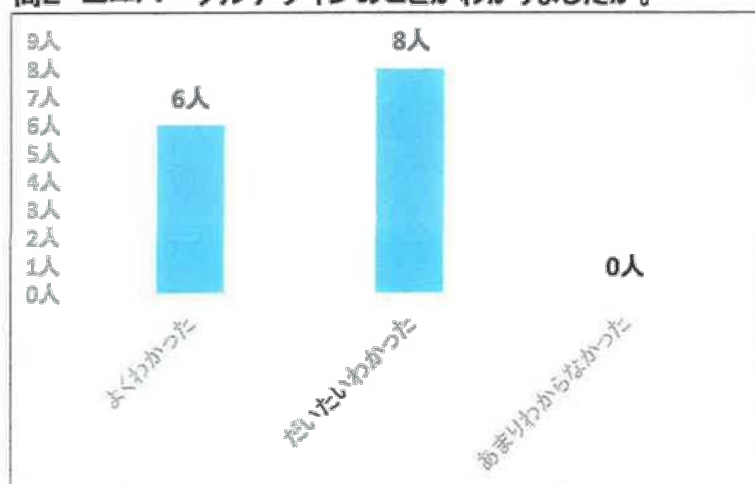
アンケート回答者

14人

問1 ユニバーサルデザインで何に興味をもちましたか？



問2 ユニバーサルデザインのことがわかりましたか。



* 感じたことや、もっと知りたいこと

- ◎みんなが使える便利なものをもっと知りたい。
- ◎トイレの「止」と書いてあるところに、点があった。お風呂のボタンにも点があった。
- ◎牛乳パックのボコッとしたところが、じっくり見たらへこみがあるんだなと思った。
- ◎目が見えない人や、病気を持っている人でも、使いやすく工夫されていることが分かった。
- ◎お家にあるユニバーサルデザインは、シャンプーを見つけた。
- ◎家の洗濯機のボタンに点の文字があって、おばあちゃんちには自動トイレの流しボタンに点があった。
- ◎食事用品の割れるスプーンが面白かった。
- ◎家の洗濯機のスタートのところに、シャンプーにデコボコがあった。
- ◎ユニバーサルデザインやバリアフリーの名前の由来が分かった。

令和7年度「ジュニア小学生(車いす・疑似)」

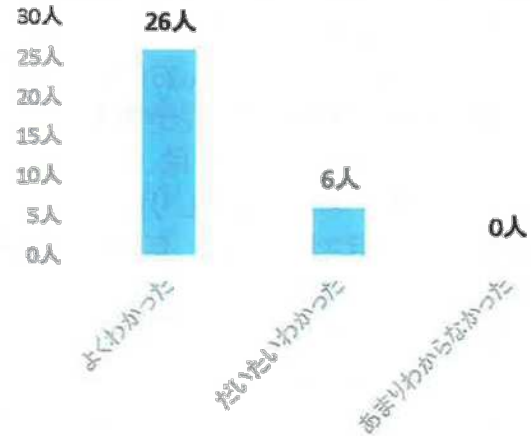
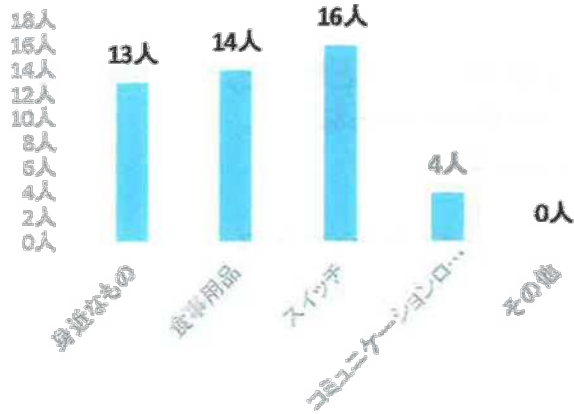
令和7年4月～令和8年3月

【注】アンケートの性別・問1-2は未回答の場合もあります。

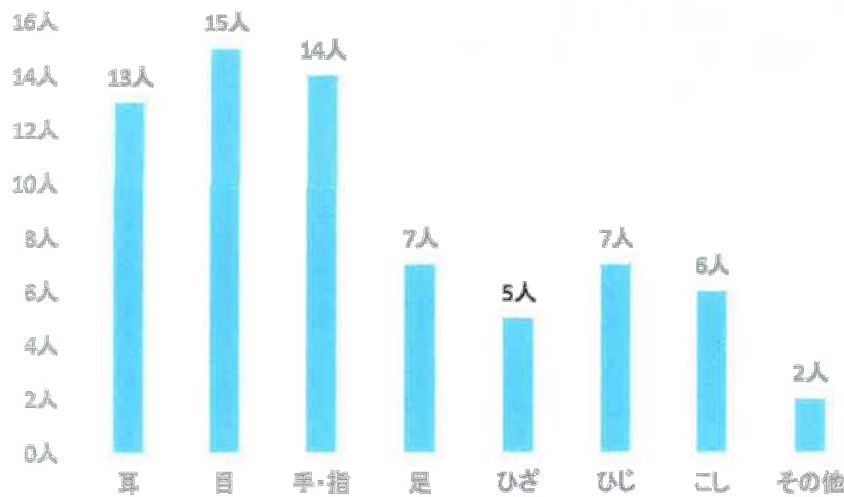
アンケート回答者 34人

問1 ユニバーサルデザインで何に興味をもちましたか？

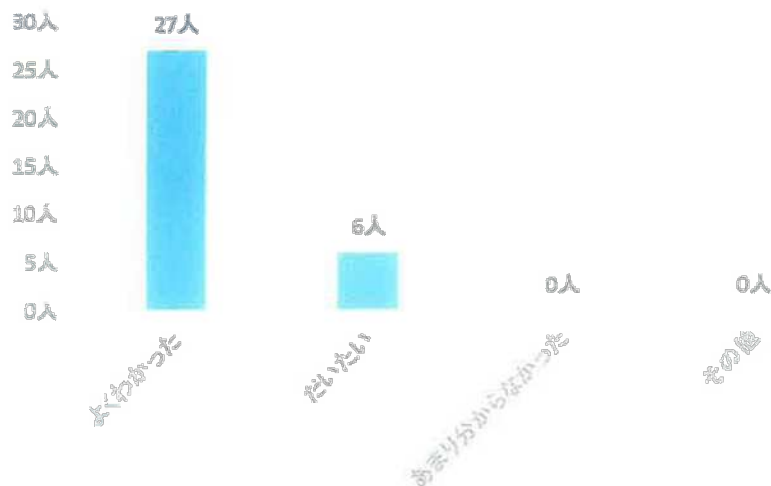
問2 ユニバーサルデザインのことがわかりましたか。



問3 お年寄りの体になって大変だと感じたのはどこですか。



問4 お年寄りの気持ちと体のことがわかりましたか。



*** 感じたことや、もっと知りたいこと**

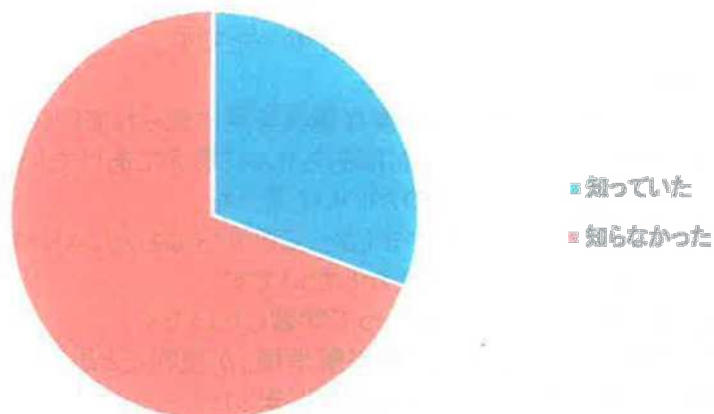
- ◎挨拶して、何か手伝だえることはありますか？と聞くといいことが分かった。
- ◎おとしよりは手や足がうごきにくいので大変でした。
- ◎これからはおじいちゃんおばあちゃんにもっと親切にしようと思った。
- ◎高齢者疑似体験で歩くとき感覚がないので、階段がわからない。
- ◎お年寄りや車いすの方は、とてもたいへんだなと思った。
- ◎もっと、車いすのことをしりたい。
- ◎車いすで押される人は、気持ちが緊張したり、むねが、ドキドキする。
- ◎お年寄りの視界がせまかった。
- ◎車いすは何円ぐらいですか？
- ◎お年寄りの大変さが分かったのでよかった。
- ◎車いすにのっている人のきもち、お年寄りの気持ちがわかった。
- ◎高齢者と車イスがわかったのでよかった。
- ◎次は、視覚障害のことを知りたい。
- ◎車いすの人や高齢者の人は、大変だなと思った。
- ◎車いすを乗っている方に実際に会って、不便さを聞きたい。
- ◎お年寄りの、生活のことについて知りたい。

令和7年度(ジュニア小学生 見学)

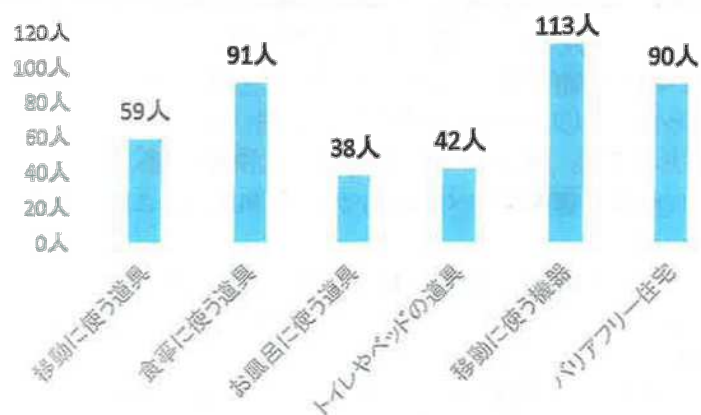
令和7年4月～令和8年3月

アンケート回答者 134人

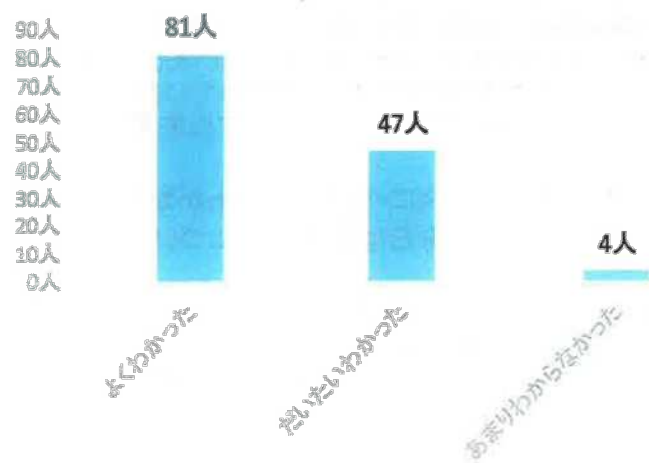
問1 「佐賀県在宅生活サポートセンター」のことを知っていましたか？



問2 興味を持ったものは何ですか？(複数回答可)



問3 「バリアフリーやユニバーサルデザイン(福祉用具)」のことがわかりましたか？



* 感じたことや、もっと知りたいこと

- ◎足が不自由な人はどんな暮らしをしているかを知りたいです。
- ◎クイズで復習できて良かった。
- ◎食事の道具でも色々な使いやすいスプーン、フォーク、はしがあつてすごいなと思いました。
試しに豆をそれらの道具で使ってみるとすごい使いやすかったです。
- ◎車イスで、移動するのに便利な工夫がよくわかった。
- ◎障がい者だけでなく、自分がけがした時にも必要な道具を見に来られていいなと思いました。
- ◎こんなに便利な道具がある事を初めて知った。おばあちゃんに教えてあげたい！
- ◎人が困ったときに助けてくれるサポートがあるのがいいと思った。
- ◎私は、移動に使った機械をもっと知りたいと思いました。これからはおとしよりや、車いすの方など、色々な人に出会って、知っていることを活かしたいです。
- ◎移動道具や食事に使う道具の事についてもっとして学習したいです。
- ◎私は、移動に使う「階段昇降機」や床が上がる「段差解消機」が便利だと思いました。
そして、福祉にも最新の機械が使われているんだなと感じました。
- ◎見学させていただきありがとうございました。ぼくは移動に使う機械は便利だと感じました。
インドネシアにもポータブルトイレがあります。次はもっと高齢者の道具を調べたいです。
- ◎今日はいろいろな事を教えて下さりありがとうございました。私が一番心に残ったことは、
段差解消機です。床ごと上がったのでびっくりしました。ありがとうございました。
- ◎感じたことは、私の知らない道具やいろんな物があつてびっくりしました。特にトイレやベッド
の道具がとても便利で今度おばあちゃんとおじいちゃんに教えたいと思います。
- ◎今日、感じたことはバリアフリーモデル住宅は、障がい者、高齢者でも快適に過ごせそう！
- ◎何も不自由ではない私でも、「便利！」と思う道具がたくさんあつて、それが「ユニバーサル
デザイン」なんだなあと感じました。
- ◎感じたことは、やっぱり全部が便利そうで、おばあちゃんに教えてあげたいと思いました。
今日は色々な「バリアフリー」や、「ユニバーサルデザイン」について教えて下さり、ありがとうございました！
他の人や、家族にも教えて広めたいと思いました！
- ◎食事などに使う道具の中に、スプーンの真ん中が開くものがあつたのですが、大豆のような
小さい物でもつかめてすごく便利だと思いました。今日はありがとうございました。
今日の学びですごく興味をもったので、休みの日にまた行きたいと思います。
- ◎もしもしフォンで、小さい声でも聞こえて驚きました。スプーンなどにもたくさんの工夫があつて
すごいなと思いました。今日はたくさんの事を教えてくれてありがとうございました。
- ◎今日は色々な道具等を分かりやすく教えて下さって本当にありがとうございました。900点
以上も展示されていて驚きました。これからも、このことを沢山の人に広めていきたいです。
- ◎在宅生活サポートセンターには、たくさんの工夫でありふれていました。これを見ると、どんな
人でも快適に過ごせると感じました。
- ◎コミュニケーションロボットがすごいなと思いました。とくにパロのロボットがかわいかったし
おばあちゃんおじいちゃんにとってもいいなと思いました。今日は福祉の事についてお話して
下さってありがとうございました。
- ◎食事に使う道具とか、移動の時に使う道具をもっと知りたいと思った。
- ◎もしもしフォンが思った以上に聞こえた。ありがとうございました。
- ◎食事に使う道具の中のお箸は、とても軽い力で動かせたたくさんお種類があり驚きました。
バリアフリーモデル住宅はたくさんの機械やユニバーサルデザインのものがありすごいな
と思いました。

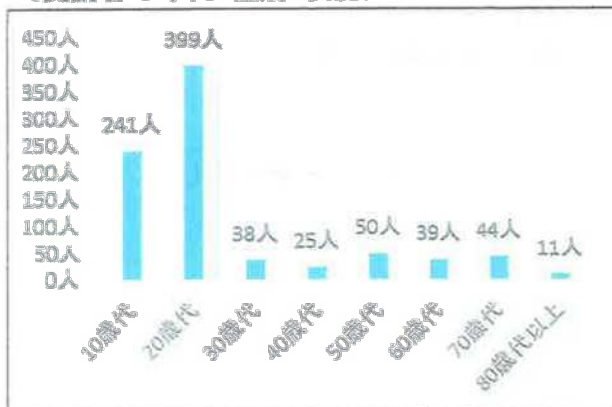
令和7年度「企業団体(見学)」

令和7年4月～令和8年3月

【注】アンケートの年代・性別・問1-2は未回答の場合もあります。

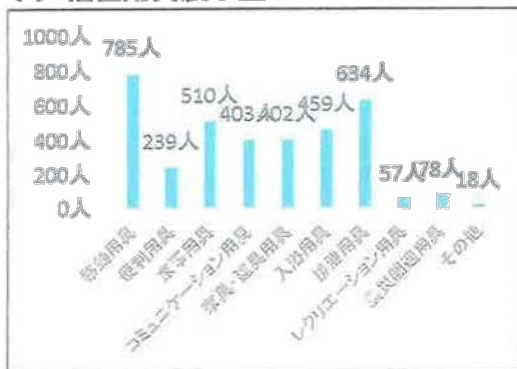
アンケート回答者 855人

＜受講者の年代・性別・状況＞

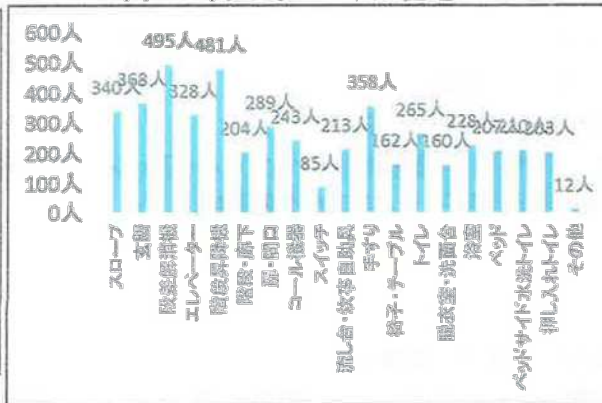


問1 参考になったものは何ですか。 ※複数回答可

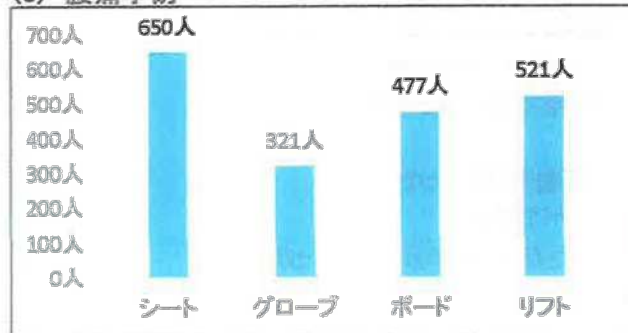
(1) 福祉用具展示室



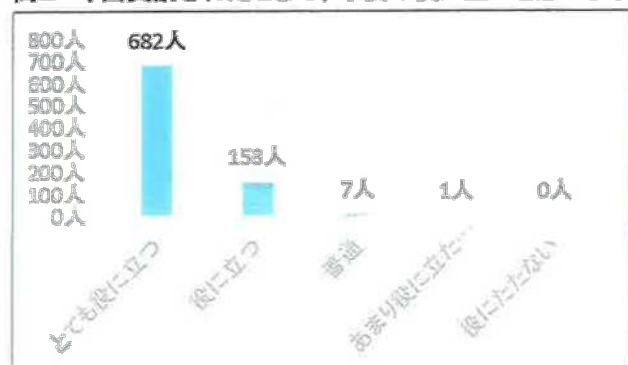
(2) バリアフリーモデル住宅



(3) 腰痛予防



問2 今回受講されたことで、今後の役に立つと思いますか。



問3 今後どのような講座を受けてみたいですか。

- ◎実際に、自宅で利用されている方のお話を聞いてみたい。
- ◎麻痺のある方の介助の実践、体を痛めにくい移乗・移動の介助方法。
- ◎脱衣所から浴槽の中までを福祉用具を活用しての援助方法を実際に実践したい。
- ◎いろいろなレクリエーション。
- ◎腰痛予防。
- ◎福祉用具を活用して、実際にどのように過ごされているのか。利用者・家族の思い。
- ◎シニアカーで、実際に外の道を走る。
- ◎利用者に適した道具を作りたい。
- ◎標準以外の、車いすの使い方を知りたい。
- ◎災害時の介助。
- ◎色々な用具を使ってみて、良かったら病院に導入してほしい。
- ◎職場がすべてバリアフリーだったら、すごく便利だと思った。
- ◎リフトを初めて経験し、体に負担なく移乗する方法を知った。
- ◎色々な種類の車いすについて。
- ◎利用者の対しての、コミュニケーションを勉強したい。
- ◎移動に特化した講座。
- ◎活用事例などがあれば知りたい。
- ◎対象者に不快感や負担をかけないシーティングの技術を学びたい。
- ◎独居高齢者の見守りシステムを勉強したい。
- ◎シーティングがどのように行われているのか知りたい。

問4 ご意見・ご要望・感想など

- ◎授業で聞いたことがあっても、実際に使用したことがない用具があり、良い体験ができた。
- ◎丁寧に教えていただいて、とても勉強になった。質問にも詳しく教えていただいた。
- ◎患者と介護者が負担にならないように接していくことが大切だと感じた。
- ◎介護される方もする側も負担が少なく、安心して利用することができた。
- ◎たくさんの知識が増え、勉強になった。
- ◎介助する側もされる側も体に負担がかかりにくい福祉用具だった。
- ◎施設でもあまり見られない福祉用具を多く見ることもできた。
- ◎実際に、理学療法士の方が使い方を教えて下さったのが分かりやすかった。
- ◎一つの工夫で多くの問題を解決することが出来ることを知った。
- ◎Hugを使ってみて、利用者さんや患者さんの介助される気持ちが分かった。
- ◎階段昇降機を体験し、使われる方がどのような気持ちなのか分かった。
- ◎座学の授業だけでは学べないことを体験できた。
- ◎リフトを体験できて良かった。
- ◎杖の高さの合わせ方が一般の方へ向けた説明で分かりやすかったなので、参考にしたい。
- ◎福祉用具を組み合わせることで、日常生活の困難が解消していく。事例を通して分かった。

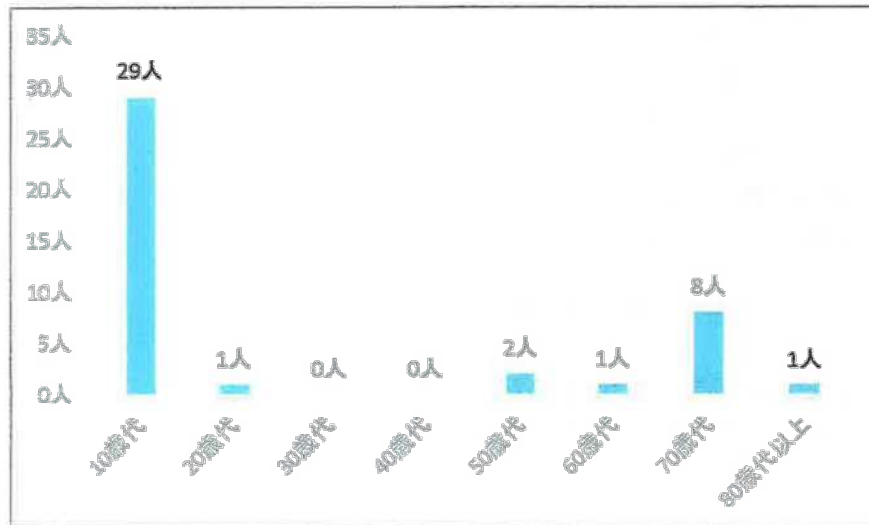
令和7年度「企業団体(疑似)」

令和7年4月～令和8年3月

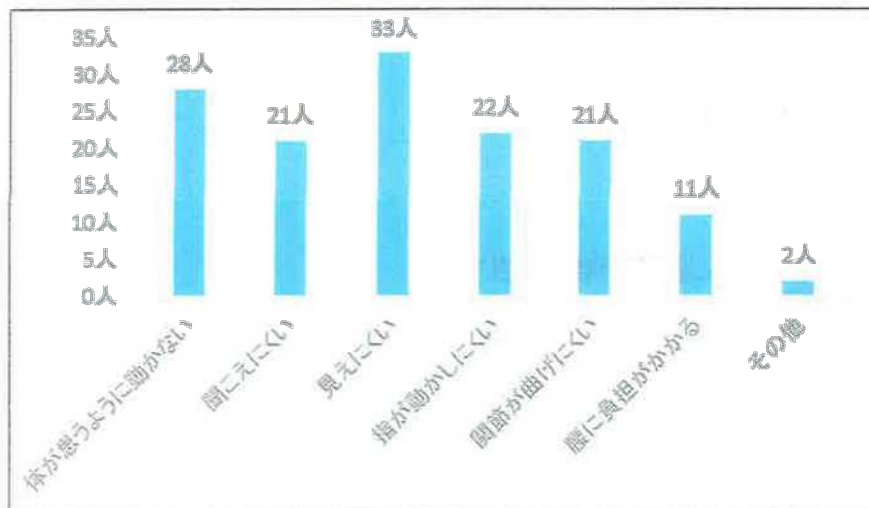
【注】アンケートの年代・性別・問1-2は未回答の場合もあります。

アンケート回答者 43人

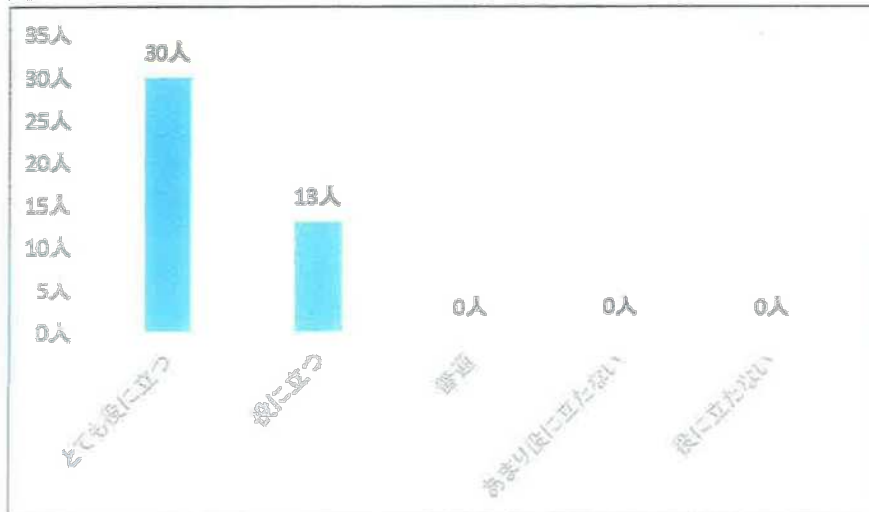
＜受講者の年代状況＞



問1 高齢者疑似体験の感想



問2 今回受講されたことで、今後の役に立つと思いますか。



* 高齢者疑似体験で感じたことや意見があれば聞かせて下さい。

- ◎目が見えにくく、体が思うようにうごかないので、生活する上で大変なことが多くある。
- ◎不自由さを感じた。体験してみないと気づけないことがあると感じた。
- ◎色は濃い方が見やすく、文字はひらがなが読みやすかった。
- ◎耳が悪いと周りの声もだが、自分の声の大きさも分からないということが分かった。
- ◎肘の関節が曲げにくく、思い通りに動かせなかった。
- ◎体験してみたら、どのように介助されたら生活しやすいのか分かった。
- ◎お年寄りを見かけたらサポーターしたい。
- ◎腰に負担が多くかかったことで、腰が曲がる高齢者が意図的に曲がっているのではないことを知った。
- ◎介助する側の時は、細かな部分まで気を使おうと思った。
- ◎大きな声で言えば伝わると思っていたが、ゆっくり言わないと伝わらないことが分かった。

* 今後、どのような講座を受けてみたいですか。

- ◎レクリエーションを知りたい。
- ◎目が見えない人や、耳が聞こえない人との接し方。
- ◎食事介助。高齢者にどのようなご飯を提供するのか。
- ◎目が見えない方や耳が聞こえない人の接し方。

* その他ご意見・ご要望などありましたら、お聞かせください。

- ◎楽しく真剣に勉強することができた。
- ◎体験できて良かった。

令和7年度「企業団体(見学・疑似)」

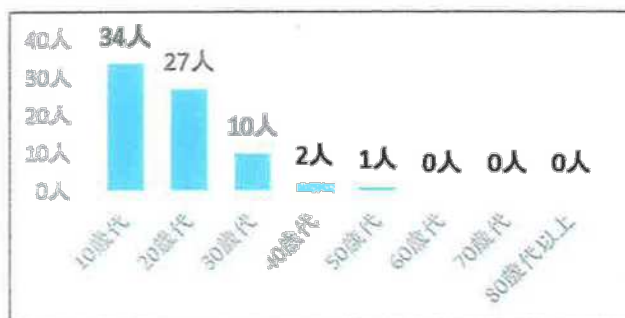
令和7年4月～令和8年3月

【注】アンケートの年代・性別・問1-2は未回答の場合もあります。

アンケート回答者

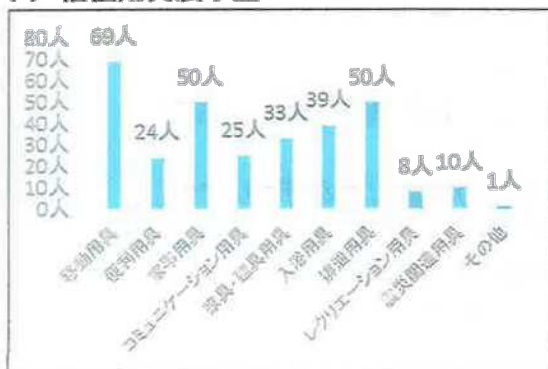
75人

＜受講者の年代状況＞

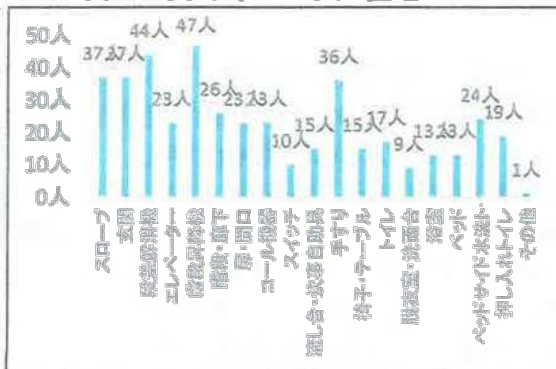


問1 参考になったものは何ですか。 ※複数回答可

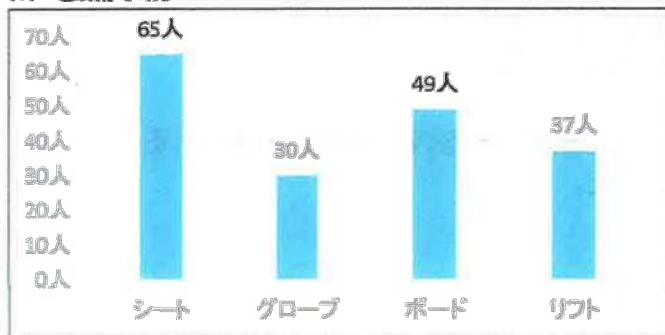
(1) 福祉用具展示室



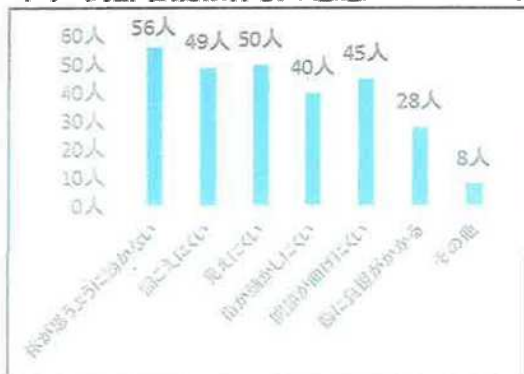
(2) バリアフリーモデル住宅



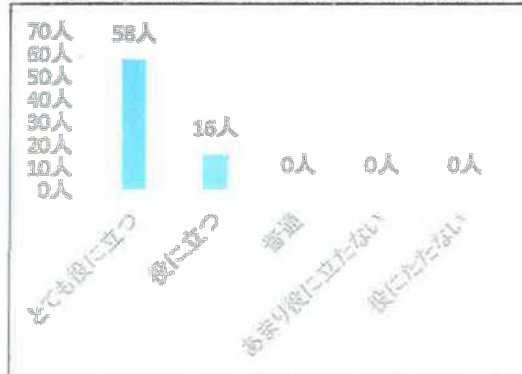
(3) 腰痛予防



(4) 高齢者疑似体験の感想



問2 今回受講されたことで、今後の役に立つと思いますか。



* 今後、どのような講座を受けてみたいですか。

- ◎ 自助具の種類を知りたい。
- ◎ 利用者に適した道具を作りたい。
- ◎ 高齢者にも使いやすい道具を作りたい。
- ◎ レクリエーション。利用者に適した道具。
- ◎ 利用者の方の負担を減らせるような介助動作
- ◎ 高齢者の方にどのようなレクをしているか。
- ◎ 本格的に行えるのをやってみたい。
- ◎ 利用者に適した福祉用具を考える講座をしてみたい。
- ◎ 高齢者の目の見え方の種類について受けてみたい。
- ◎ 利用者に適した道具を作る他、限られた資源を有効活用できるよう勉強したい。
- ◎ 色々な福祉用具の最新式（ベッド、自助具など）

* その他ご意見・ご要望などありましたら、お聞かせください。

- ◎ 福祉用具の種類やどのような場面で使うのかがわかった。高齢者は普段どのような思いで過ごされているのか想像できた。
- ◎ 高齢者が普段どのように生活されているかわかり、今後の看護につなげたいです。
- ◎ 楽しく高齢者体験ができました。学んだことを看護にいかしていきたい。
- ◎ リフトを実際にはじめてみて、体験できたのがいい経験になりました。
- ◎ とても優しくアドバイスを持って、実習などにいかしたいと思った。
- ◎ 「抱えない介護」という言葉が印象に残った。
- ◎ 全体的にとっても分かり易く、看護でもここで覚えた知識を活用していこうと思った。
- ◎ 実際に高齢者の気持ちを感じることができて、良い体験ができました。
- ◎ 家族が高齢者になった際の参考になってありがたかった。
- ◎ ちょっとした工夫で自立出来るようにしていてすごいと思った。
- ◎ 道具を使用して自立度を上げる大切さを知れた。
- ◎ 想像していたより何倍もの金額に驚いた。だけど納得できるくらい便利で介護される側もする側も、体も心もとても楽になると実感した。
- ◎ 出張教室してほしい。
- ◎ 県外からの利用はどのような状況なのか。
- ◎ 今回学んだ事を今後に活かしていきたいと思います。
- ◎ 患者が退院した後も自宅で安心安全に暮らしやすい生活を送るために、福祉用具を提案したり(状態に応じて)していきたい。
- ◎ 実際の物などを見たり、触ったりしながら学習できるためよかった。

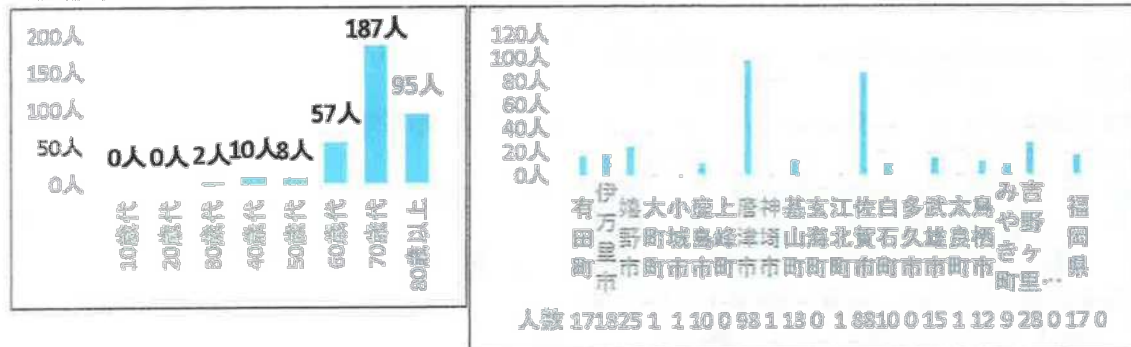
令和7年度「地域リーダー」

令和7年4月～令和8年3月

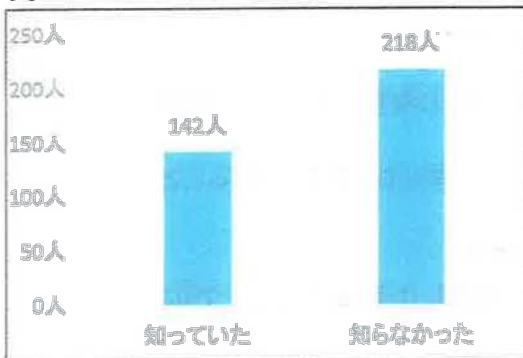
【注】アンケートの年代・性別・住所・問1-4は未回答の場合もあります。

アンケート回答者 367人

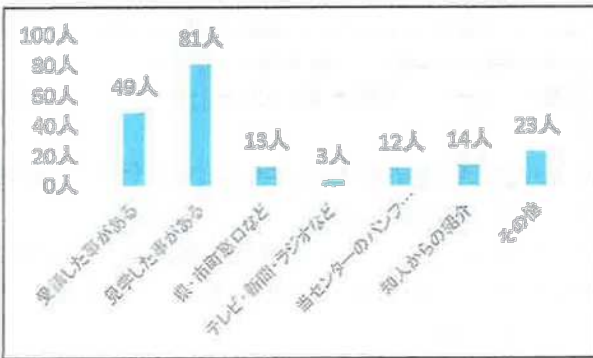
<受講者の年代・性別・住所別 状況>



問1 当センターのことを知っていましたか。

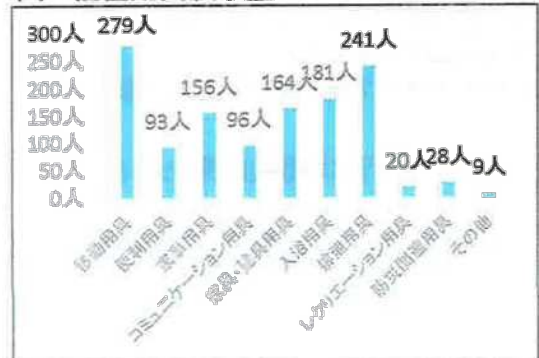


問2 当センターをどこで知りましたか。

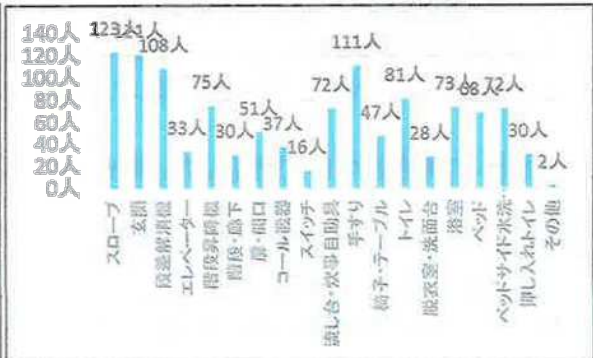


問3 参考になったものは何ですか。 ※複数回答可

(1) 福祉用具展示室



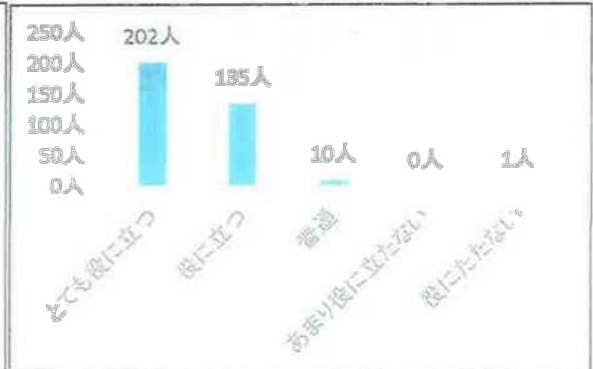
(2) バリアフリーモデル住宅



(3) 腰痛予防



問4 今回受講されたことで、今後の役に立つと思いますか。



*ご意見・ご要望

- ◎体が不自由な方でも、今はからだに負担軽減された形で暮らせると期待が持てた。
- ◎高齢になると必要な物ばかりで、時間を取り見学させてもらいたい。
- ◎勉強になったので、知人にお知らせしたい。
- ◎車の運転がそろそろ危なくなった。セニアカーの話が良かった。
- ◎98歳の母と同居しているので、とても為になった。
- ◎なかなか自分では解決できないことも、お話が聞けて良かった。
- ◎ベッドの高さなど気になっていた。ベッドは考えたい。
- ◎一人暮らしが多い地域なので、皆さんにいろいろお話したい。
- ◎道具がたくさんあり、比較や実技ができて良い。
- ◎ここ数年で大きく充実してきたと感じた。
- ◎介護用具が開発されて、介護する側される側も改善されている。
- ◎福祉用具が、15年前ほどからあれば、介護が楽だったのと思った。
- ◎今までに見たことがない用品を見せてもらい参考になりました。
- ◎将来介護する時に、気が楽になった。
- ◎両親とも送り、介護を受ける側になっている。周りの方の負担はかけずに利用していきたい。
- ◎様々な便利の介護用具を知ることができて勉強になりました。実際に触ることができたので、良い体験になりました。
- ◎ラップポイントイレについて家族と検討したいと思います。
- ◎サポートセンター設立30周年弱というのを聞いて、受講した私達がロコミで広げていけたらと思います。
- ◎介護に対してサポートしてもらう時、色々と便利な物を紹介してもらい、自分の知らない物ばかりで便利な物を知る事が出来てありがたかったです。ありがとうございました。
- ◎失われた運動機能を補充する機器がたくさん有り、興味深い。自分が使わないで済むように日頃の体調に気をつけたいと感じた。ありがとうございました。
- ◎なるほどと思うことがたくさんありました。説明も分かりやすくてありがとうございました。
- ◎なかなか工夫されていて感心した。将来は利用したい。行く行くは相談に来たいと思った。
- ◎勉強になりました。介護者も楽だと思いました。
- ◎よく工夫されていて、勉強になりました。
- ◎介護になるまえに知識があれば良いと思いました。
- ◎もっと早く知りたかったことがたくさんありました。
- ◎普段、目にしない設備・器具だったので、とても勉強になりました。
- ◎こんなに介護用品が、使う人の使いやすいうように進化しているのには驚きました。改めて自立した生活ができるように、家族の負担が軽減できること。
- ◎何回来てても新しくなった物もあるので、またぜひ来たいと思います。

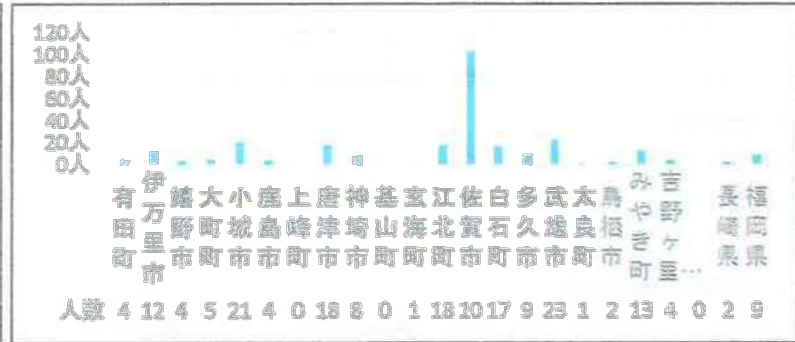
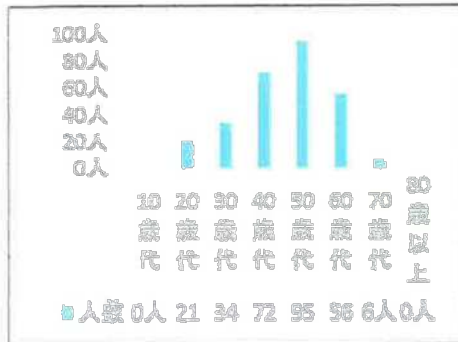
令和7年度「専門講座」

令和7年4月～令和8年3月

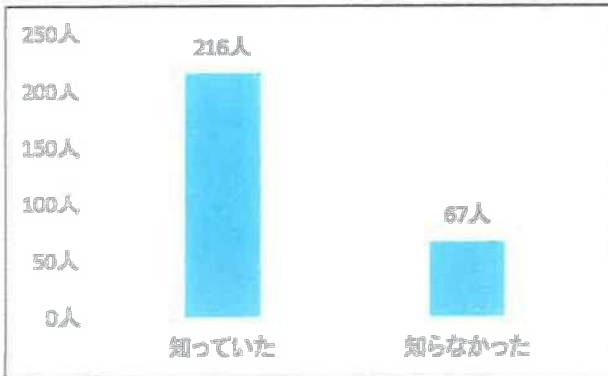
【注】アンケートの年代・性別・住所・問1-5は未回答の場合もあります。

アンケート回答者 285人

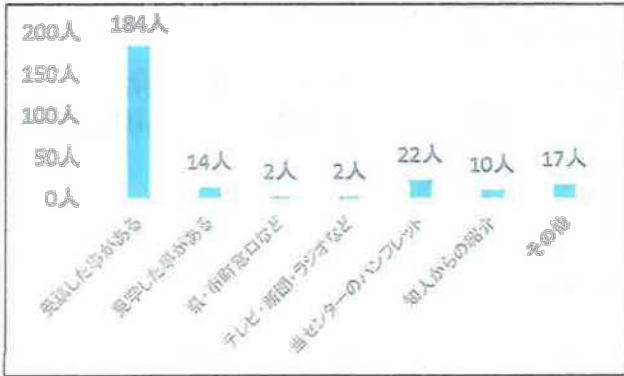
<受講者の年代・性別・住所別 状況>



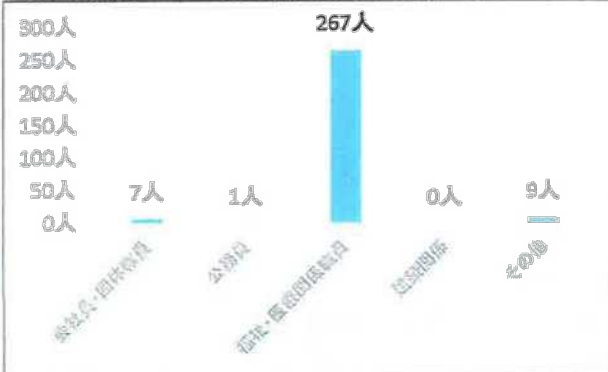
問1 当センターのことを知っていましたか。



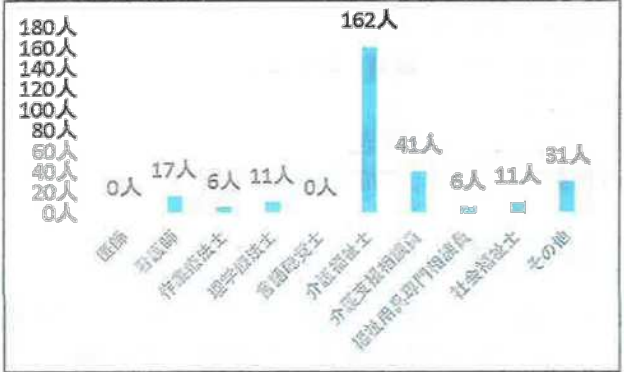
問2 当センターをどこで知りましたか。



問3 職業についてお答えください。

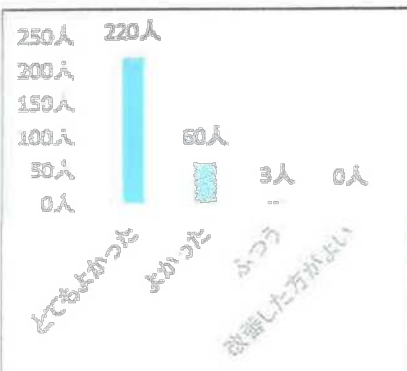


問4 資格をお持ちの方はご記入ください。

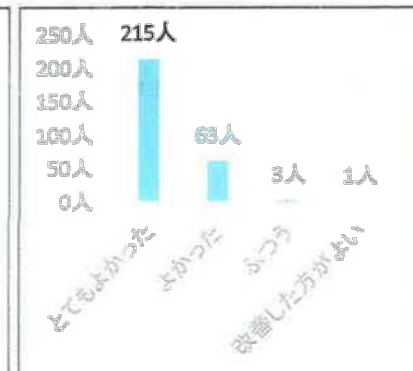


問5 今回受講された講座の各項目について該当するものに○を付けて下さい。

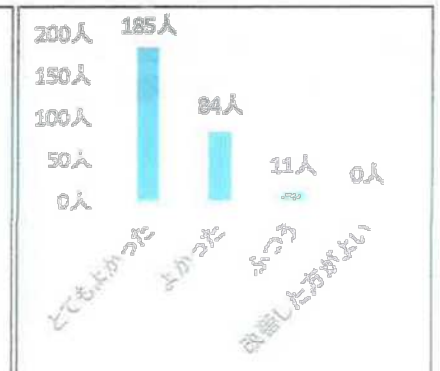
(1) 講師について



(2) 講義内容について



(3) 資料について



問5 (1)講師について

- ◎分かりやすい言葉と、気が付いたことを伝えてもらった。
- ◎具体的に説明され、分かりやすかった。実演が良かった。
- ◎シーティングについて分かりやすく聞き取りやすく話していただいた。
- ◎温かい雰囲気。
- ◎社会資源がとても分かりやすかった。
- ◎社会福祉士としての連携、知識の深さのすばらさを知りました。

問5 (2)講義内容について

- ◎実技があり、それぞれグループに講師がついてくれ、聞きやすかった。
- ◎初めてシーティングについて教わり、座面のたわみの改善について学べた。
- ◎シーティングをすることによって、不良姿勢が正しくなることを知った。
- ◎事例が参考になった。
- ◎事例検討・グループワークがあり、良かった。
- ◎ワーク方式を取り入れた参加型で、しっかり記憶に残った。
- ◎現場で活かせる話ばかりだった。

問5 (3)資料について

- ◎資料と実技で分かりやすかった。
- ◎見やすかった。
- ◎自分で書くところもあり、考えながらできた。

問6 今後どのような講座を受けてみたいですか。

- ◎椅子でのシーティング。
- ◎おむつの当て方。(褥瘡・尿の多い方)
- ◎移乗の仕方。
- ◎口腔ケアについてと実践。
- ◎8050問題で言えば、50歳の方の支援について。

問7 ご意見・ご要望

- ◎リクライニング車いすとティルト車いすの違いを知る事ができた。
- ◎認知症の講座には度々参加していますが、若年性認知症での社会資源の講義は勉強になった。認知症が増加傾向だが診断名の記載だけで、どのようなサービスがあるのか分からなかった勉強になり、参考になった。
- ◎介護保険分野での業務がメインなので、新たに若年性や障害の分野など知る事ができた。
- ◎スライディンググローブを使った2人介助を初めて知ったので、明日から試したい。
- ◎新人研修に、座り直し実技を追加する。
- ◎早速会社に戻って、他の職員と共有し実践したいと思っている。

令和7年度在宅生活サポートセンター指定管理業務に係る自己評価

1 センター運営に関する業務

(1) 講座・研修事業

○要求基準（仕様書から抜粋）

講座対象者	業 務 内 容	実施基準
一般県民	・センターの福祉用具やユニバーサルデザイン製品等を活用した快適な在宅生活、介護知識や技術に関する講座や実技講習会を開催する。 ・自助具製作ワークショップ等のテクノエイドの基礎知識に関する実技講習会を実施する。	年24回以上
行政職	・市町・地域包括支援センター職員を対象とした、福祉用具や住宅改修等を活用した在宅生活における自立支援、介護知識や技術に関する研修・事例研究会等を実施する。	

○できたこと

- ・介護講座を年22回計画し、受講者は令和6年度よりも51名増えた。団体受け入れ、出前講座実績147回行った。あわせて、年24回以上を達成することができた。

1) 介護講座ごとの内訳と成果

結 果	要因（行ったこと）
リハビリ工房（自助具製作）（3回） ・参加者に自助具製作を通して考え方や工夫の視点を伝え、自立支援についての学びの場となった。	・年間介護講座案内を3,500部作成し、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、地域包括支援センター、公民館など関係機関に配布した。受講者の手元に届くような配布を続けていく。 ・年間講座案内とは別に、申し込み状況に合わせて、各講座チラシを作成した。このチラシを、関係機関より配布をいただいたことで、受講者増につながった。講座ごとのチラシを作成していく。 ・佐賀新聞、西日本新聞の掲示板で一般向け講座の開催告知を行った。受講者110人中19人が新聞を見て申し込みされていた。高齢者の新聞購読されていることを踏まえ、継続した取り組みを行っていく。
一般向け講座（10回） ・介護予防や在宅介護の基本を中心に実施。50歳代以上の参加が多く、幅広い年齢層からの参加があった。介護や自立支援に対する理解促進に寄与した。 ・「丸ごと介護」を4回行い、個別の身体状態、家庭状況に応じた介護情報・福祉用具の扱いを伝える機会となった。令和8年度は、相談業務の一環として、繰り返し相談に来ていただけるように調整・受け入れを行う予定。	
地域包括向け講座（4回） ・「介護の生産性向上」現在の課題に即したテーマで、管理者・リーダーの受講につながった。	

高齢者講座（５回） 県内の老人クラブ会員に向けて、介護・福祉用具・住宅改修等についての情報提供を実施した。	- 老人クラブの活動の中で、リーフレットの配布をしたことで、センターの周知をもらえ、地域の方と来所につながった。 - 後日受講された会員から地域サロン活動での団体見学につながった。 - 老人クラブとの連携をもって、在宅生活における自立支援につなげていく。
--	---

２）団体受け入れ、出前講座の実績

結 果	要因（行ったこと）
ジュニア講座（６２回） - 出前講座が多く、高齢者疑似体験や車いす体験などを通じて高齢者の特徴を理解させることができた。 - ユニバーサルデザイン講座や福祉用具を活用した自立支援の具体的なイメージを持たせることができた。	- 各学校のリクエストに応じて、時間調整を行ったことで開催することができた。学校の要望を踏まえて企画することで、高齢者の理解、福祉用具等の理解へとつながった。 - 佐賀県県民協働課「さがすたいる」より依頼で、新規の小中学校へ高齢者疑似体験講座を行った。 - ニーズに応じた対応をしていく。
企業団体講座（５９回） - 来所でできなかった団体にオンラインで対応したことで、後日、個別に見学相談につながった。 - 看護学校等では、見学と機器の体験、事例検討を行うことで、実践的な研修ができた。	- 来所と出前による団体講座だけではなく、オンラインで行うことで、相手側のニーズに対応した講座の企画・運営ができた。 - ニーズに応じた対応をしていく。
地域リーダー講座（２６回） 福祉用具について説明し、実際にリフト等の体験をし、「抱え上げない介護」の考え方を伝えることができた。	

３）運営・広報における取組み

結 果	要因（行ったこと）
講座や研修のテーマ選定は、昨年度受講された方のアンケートの回答や、関係機関から意見を聴取したうえで企画・実施した。	研修の全受講者に対して、満足度や希望する講座内容等のアンケートを実施した。
地域包括向け講座は、受講者が増加した。	県、関係機関より介護施設・事業所に対してメール配信していただいたことで周知することができた。施設単位での申し込みにつながった。

○できなかったこと

結 果	要因・改善策
▪ 企業団体講座が令和6年度74回から、令和7年度は59回に減少した。	▪ 令和6年度依頼があった企業団体からの再依頼がなかった（リピーター企業が少なかった）。理由として、企業団体を含めた団体講座の案内が不十分であった。積極的に出前講座、企業団体講座の案内を関係機関を通してチラシの配布などを行っていく。
▪ 地域リーダー講座が令和6年度30回から、令和7年度は26回に減少した。	▪ 民生委員や老人クラブ、地域サロンからの来所や出前講座として対応し、令和6年度からの再依頼が少なかった。理由として、団体講座の案内が不十分であった。積極的に出前講座、団体講座の案内を関係機関を通してチラシの配布などを行っていく。
▪ 「介護教室」については定員に達することができなかった。	○必要な方へ「介護教室」の情報が届いていなかった。 ▪ 一般向け講座「介護教室」等の開催を知っていただくために、ホームページ、SNS、新聞以外の媒体として、「市報」等に掲載していただくように取り組んでいく。 ▪ 地域包括支援センター等、在宅での生活を支援している機関等への広報を行っていく。 ○「介護教室」については、一般の方よりホームヘルパー等の受講が多かった。 ▪ ヘルパーへは専門講座の周知を行っていく。 ▪ 介護相談に来られた方には、「介護教室」のご案内をしていく。

(2) 福祉用具・介護等に関する相談

○要求基準（仕様書から抜粋）

対象者	業 務 内 容	実施基準
一般県民	- 福祉用具や福祉用具の調整、住宅改修、介護その他の在宅生活に関する相談に対し、相談者一人ひとりの身体状態や生活環境などに応じた専門的相談を実施し、高齢者等の自立した在宅生活を支援する。 - 必要に応じ、関係機関との連絡調整等を行う。	常 時

○できたこと

結 果	要因（行ったこと）
福祉用具に関する相談（7, 206件の紹介・相談対応）	- 相談・提案：利用者の身体状況や自宅環境をヒアリングし、複数の福祉用具等を提案。実際に試用してもらうことで、ご本人に適合するものを選定しました。 - 対面相談の推進：電話での相談・問合せの際にも、可能な限り本人と一緒に来所をすすめ、実際に身体に合うか用具を試していただくようお願いした。 - 関係機関との連携：市町、地域包括支援センター、病院、福祉用具販売事業所などからの紹介により、来所した見学者や相談者への対応を行いました。相談内容など必要に応じて、紹介された機関へ報告し連携を図りました。 ① 相談傾向：移動機器に関する相談全体の48%を占めています。主なものは、杖、歩行器、車いすに関するものが多数を占めています。また導入前の確認（種類、使用方法等）についての相談が多くみられた。 ② 事業者紹介：購入希望者が多かったため、福祉用具販売事業所の紹介として「事業所一覧」を配布し、連携や丁寧な対応を取り持ったことで、購入・貸与につなげることができた。 ③ 専門職（作業療法士会）との連携「生活相談」：日曜日に作業療法士会より「福祉用具」「シーティング」「認知症」などに関する相談対応の協力を得ました。専門的な相談については、専門的なアドバイスができる作業療法士がいることを紹介して、日程を調整し相談対応を行った。これにより、相談者と専門職へとつ

	なげることが可能となった。 ④ 来所のきっかけ：地域包括支援センター、福祉用具事業所、知人から教えてもらって等の紹介で来所される方と、口コミにより来所につながっている方が多く、関係機関との連携、団体見学での周知などを行っていく。 ネットで調べていてセンターへこられる方があった。センターを知るきっかけとして、ホームページ、SNS の情報発信を行っていく。
▪ 住宅に関する相談 (5, 739 件の紹介・相談対応)	▪ 本人・家族からの相談内容に対して、身体状況や自宅環境を聞き取りながら、複数の福祉用具等を提案し、試してもらいご本人に適合するものを選んでいただいた。 ① 相談の工夫：住宅相談に関する電話での相談・問合せの際、写真や図面を持って相談に来て頂くように説明した。 ② 建築士との連携：水・日曜日には建築士への相談も可能なことを伝え、事前予約の際に基本的な情報を把握することでセンター内での受け入れ準備手配がスムーズに実施しました。中には繰り返し相談・確認に来られるケースもあった。

○できなかったこと

- 令和6年度よりも相談件数が減少した。

結 果	要因・改善策
▪ 福祉用具： 令和6年度：8, 811件 ⇒ 令和7年度：7, 206件	▪ 福祉用具のうち、コミュニケーションロボット、介護ロボットの件数が減少した。その要因として、新設された「佐賀県介護業務効率化サポートセンター」と紹介する福祉用具（介護テクノロジー）の役割が重複していることが考えられる。介護業務効率化サポートセンターとの役割分担を行い、体制を整えていく。
▪ 住宅相談： 令和6年度：6, 414件 ⇒ 令和7年度：5, 739件	▪ 住宅相談では、ホームページを見て来ましたとの声があった。ホームページの内容を見直し、住宅相談に参考になる内容、実際見てみたい内容へとしていく。 ▪ 建築士からの紹介で相談に来られる方もあり、住宅改修の入り口となる建築士、福祉用具専門相談員から紹介していただけるように、建築士会、福祉用具供給協会へ依頼し連携体制をとっていく。
▪ 相談後の追跡ができていなかった。	▪ 相談者との関係性を作り、相談者が利用されている地域包括支援センターや福祉用具販売事業所などから、導入・対応後の情報を共有することができるよう協力依頼をしていく。協力依頼ができるような関係づくりのために、コミュニケーションをとっていく。

(3) 「在宅サポーター」のネットワーク構築、運営

○要求基準（仕様書から抜粋）

対象者	業 務 内 容	実施基準
一般県民	・在宅生活の支援に関係する介護・福祉・医療・建築等の機関・団体・個人等を「在宅サポーター」として登録、相互連携・交流等を図るネットワークを構築・運営し、相互理解・スキルアップと相談及び情報提供体制の充実を図る。	常 時

○できたこと

結 果	要因（行ったこと）
・新規登録実績：6人 - 延べ登録者数は240人	・登録者への定期的あいさつ文、講座・イベント案内の郵送を行った。 ・サポーターのネットワークを活用しての、イベント案内、講座案内等の広報活動を行った。 ・イベント開催での運営スタッフとしての協力をいただいた。 ・講座（シーティング、抱え上げない介護）では、講師のサポートとしての運営にかかわっていただいた。

○できなかったこと

結 果	要因・改善策
・積極的な勧誘の不足	○アプローチの不足 ・サポーターを増やすには、関係機関等に対して、積極的な説明や勧誘が行えていなかった。 ・センターを繰り返し、利用している方への直接的な勧誘ができていなかった。 ○登録者の偏り ・在宅サポーターの新規登録が作業療法士等の専門職に偏り、一般の方の募集がすすんでいなかった。 ・一般の方も含めて幅広く在宅サポーターを募集できるよう、ホームページ、チラシなどを活用して広報、案内をしっかりと行える体制を整えていく。 ○サポーターの役割の見直し、登録方法の見直しを行い、登録しやすい環境を作っていく。

2 施設の利用に関する業務

(1) 福祉用具やUD製品の展示

○要求基準（仕様書から抜粋）

対 象 者	業 務 内 容	実施基準
一般県民	・「見て、触れて、試す」ことをコンセプトに、福祉用具やユニバーサルデザイン製品の効果的な展示を行い、実際に体験してもらう。	常 時

○できたこと

結 果	要因（行ったこと）
・展示数 977点 （内）令和7年度新規展示 42点	・「抱え上げない介護」で使用する体位交換クッションや車いすクッションなど「移動機器関連」を増加させた。
・展示品を実際に手に取り体験できるよう配置を実施。	・車いす、歩行器などの試乗体験、リフト等の体験ができる空間を確保した。
・常設展示していない福祉用具	・メーカー等の協力依頼を行い、日程調整し、体験できる体制を整えた。
・相談見学が2, 909名の来館。	① 来場の促進：電話での相談に対して内容説明を行い、本人との来場・使用を促した。 ② 関係機関へのつなぎ 購入や試しを希望がある場合は、地域包括支援センター、ケアマネージャー、福祉用具販売事業所へ連絡し、訪問を依頼した。 ③ 口コミや紹介の広がり 団体見学者に「センターの紹介リーフレット」を配布した結果、後日、知人紹介や個人的な相談で来られるケースが見られた。
・ジュニア（62回：1, 231名）、企業団体（59回：984名）地域リーダー（26回：456名）等に見学・説明を実施。	・学びの機会の提供 福祉用具、ユニバーサルデザイン、住宅改修、介護・自立支援についての学びの機会を提供した。
・出前講座（17回：632名）	・福祉用具、ユニバーサルデザインについての学びの機会を提供した。
・5月28日に「さがサポセンターいきいき館祭2025」を開催（122名の参加）	・イベントでの周知 佐賀市神野地区にポストイン（チラシ配布）にてイベント案内を行った。バリアフリー住宅、福祉用具についての説明・体験を実施した。

○できなかったこと

結 果	要因、改善策
▪ 見学人数が減少：令和6年度：3, 1 3 8 名⇒令和7年度：2, 9 0 9名	▪ ホームページを見て来館・相談する人が増えている。ホームページ内の福祉用具の展示情報がまだ不十分であり、内容を充実させていく。 ▪ ホームページを見て来館する人が増えているのを活かしネット上で「行ってみたい」と思わせる仕組みを作っていく。 (ホームページのリニューアル)

(2) 福祉用具、UD製品や住宅改修に関する情報発信

○要求基準（仕様書から抜粋）

対 象 者	業 務 内 容	実施基準
一般県民	- 福祉用具やユニバーサル製品、住宅改修等に関して常に最新情報を取り入れ、情報提供を行う。 - 市町や関係団体等のニーズに応じた講演会やセミナーの開催、開催への助言、技術的支援を実施する。	常 時

○できたこと

結 果	要因（行ったこと）
新展示品紹介	- ホームページでの紹介を行い、情報の更新を行った。 - 新展示品と分かるように製品紹介の札を作成した。
地域包括向け講座として、福祉用具の活用を考えた事例検討会を企画・実施した。2回の開催で、25名の受講であった。	モデル住宅を含め福祉用具と住宅改修についての学びの機会を提供した。今後も福祉用具を活用についての事例検討会を計画していく。
一般県民向け・地域介護教室（県内遠方への出前講座）として、「さが介護・健康・福祉フェア 2025」へ協力し、300名の参加者へ情報提供を行った	県主催のイベントで情報提供する機会をいただいた。今後も引き続き協力していく。
ジュニア講座 62回開催し、1,231名（内出前30回：534名）の参加であった。	各学校のニーズに応じた企画・運営を行うことができた。ニーズに沿った企画ができるように取り組んでいく。
企業団体講座（大学・専門学校含む）59回開催し、984名（内出前2回：40名、オンライン：1回：45名）の参加であった。	来所、出前、オンラインと開催方法を工夫することで、ニーズに応じた対応をすることができた。ニーズに沿った企画ができるように取り組んでいく。
地域リーダー講座 26回開催し、456名（内出前2回：38名）の参加であった。	- ホームページ、SNS、新聞による広報にプラスして佐賀市神野地区へポストイン（チラシ配布）の広報を行った。 県、関係機関より施設・事業所に向けて広報を行っていただいた。
リフトリーダー養成研修を開催した。	センターの機能を活用したリフト、抱え上げない介護についての学びの機会を提供した。
佐賀県県民協働課より小中学校のユニバーサル講座、高齢者疑似体験などについて、福祉用具の貸出や一緒に対応を	新規の小中学校への学びの機会を提供できた。

行った。 ▪佐賀県県民協働課の「さがすたいるバリアフリー相談」において、現場にて一緒に検討し提案を行った。	▪公共機関、施設、店舗などに出向き多職種の方と一緒に検討を行うことができた。
--	--

○できなかったこと

結果	要因、対応策
▪ ホームページ、SNSの更新を、イベント案内、講座案内、新展示品紹介として行ってきました。ホームページ、SNSの更新も行ってきましたが、更新が滞る時があり、定期的な更新ができていませんでした。	○更新業務の「仕組み化」と担当内の共有 ▪ 特定の担当者に依存しない体制作りを行う。情報発信スケジュールをあらかじめ年間計画に組み込み、複数名による定期更新体制を確立していく。 ▪ 「第〇週は〇〇講座の報告」といった年間スケジュール（年間発信カレンダー）を設定していく。（特定の職員に負担が偏り防ぐため）
	○短文・簡易発信の活用（SNSとHPの連携） ▪ SNSを利用し詳細情報を掲載するホームページの役割分担を明確にし、双方の連携機能を活用することで、効率的かつ持続可能な広報活動を展開していく。 ▪ ホームページ（HP）の更新を毎回きっちり行うのは時間がかかるため、まずは手軽なSNS（Instagram、Facebookなど）でスピード優先の短文発信を行い、HPにはそのタイムラインを表示させる、または月1回HP側でまとめる形にしていくことを検討していく。
	○新展示品紹介の「フォーマット（型）」作成 ▪ 「新展示品紹介の定型フォーマット」を作成し、情報発信にかかる作業時間を削減することで、速やかな情報更新が行える環境を整えていく。 ▪ 新しい展示品が入った際、「①品名、②特徴、③どのような人におすすめか」といったテンプレートをあらかじめ用意しておき、写真を撮って当てはめるだけで発信できるようにしていく。
	○講座・イベント実施と「発信」のセット化 ▪ 各種講座・イベントの実施報告について、事業完了時のルーティンワークとしてホームページ・SNSへの投稿を義務付け、タイムリーな情報発信していく。 ▪ ジュニア講座や地域リーダー講座など、年間で多数の講座を実績として残しているため、「講座が終了したら、その日のうち（または翌日まで）に写真を1枚～2枚添えてSNSにアップする」という動きをルーティン（業務手順）に組み込んでいく。

(3) 福祉用具の貸出

○要求基準（仕様書から抜粋）

対 象 者	業 務 内 容	実施基準
一般県民	▪ 展示している福祉用具等の試用貸出し	常 時

○できたこと

結 果	要因（行ったこと）
▪ 適合判断のための試用貸出は、43点。	▪ ご本人が来所できないことで、販売事業所や専門職を通して確認するための、試用貸出があった。入浴チェア、シャワーキャリーなどの貸出があった。 ▪ 見守りセンサなど貸し出しができないものについては、カタログを提供し特徴などの情報提供を行った。 ▪ 導入前に実際の使用感を確認できたことで、円滑な導入につながっていることを、福祉用具事業所より報告があった。
▪ 研修等のための教育貸出は556点。	▪ 抱え上げない介護などの研修への貸し出しを、専門職、販売事業所、メーカーなどを通して行った。また、研修会などで複数の機器が必要な場合には、協力できる事業所やメーカーの紹介を行った。 ▪ センターでの抱え上げない介護講座を受講された施設に対して、導入前の確認として貸し出した。 ▪ 学校の福祉・家庭科の授業、研修会での高齢者疑似体験セット等の教育貸出の利用があった。 ▪ 佐賀県県民協働課「さがスタイル」へ小中学校のユニバーサル講座での教育貸出を行った。
▪ DVDの貸し出しは、11本。	▪ 施設での勉強会、個人での学習にご利用いただいた。

○できなかったこと

結果	要因、対応策
福祉用具試用貸出を行った後の利用者の変化について情報収集ができていませんでした。利用されている地域包括支援センターや福祉用具販売事業所などから、導入、対応後の情報を共有することが出来ていませんでした。	- 試用貸出後の「利用者の変化」についての情報収集不足していた。 - 地域包括支援センターや福祉用具販売事業所との「導入・対応後の情報共有」不足が貸し出した後の「追いかける（アフターフォロー）の仕組み」や「関係機関との連携ルール」が定着していないことが原因と考えられた。 - 返却・導入時の「振り返りシート（簡易アンケート）」の活用する。 「適合状況はどうだったか」「本人の反応（例：動作が楽になった、不安が減ったなど）」を3～4項目の選択式＋自由記述で記入してもらい、返却時に必ず回収していく。 - 台帳に「導入後確認日（例：貸出終了から2週間後～1ヶ月後）」の欄を設け、担当職員が地域包括支援センターや販売事業所へ「その後、〇〇様の様子はいかがですか？適合していましたか？」電話やFAX、メールで一歩踏み込んで確認するルーティンを作っていく。 - 定期連絡（モニタリング）ルールの合意：貸出を行う段階で、ケアマネジャーや福祉用具専門相談員に対し、「今後の参考（あるいは県への報告）のため、導入1ヶ月後の様子をFAX等で1行教えていただけますか」と事前にサンプリング協力を依頼（約束）していく。 - 収集したデータの蓄積と「適合事例集」への活用 - 集まった「利用者の変化」や「他機関からのフィードバック」を単なる報告書で終わらせず、センターの資産にしてい - 収集した事例を「〇〇なケースでシャワーキャリーを試用⇒自宅のお風呂にスムーズに移行できた（地域包括センター共有）」といった形で事例化してファイリングする。これにより、次回以降に他の事業所から相談を受けた際、「以前、似たケースでこのような変化・導入事例がありました」と具体的なフィードバック

	クができるようになり、関係機関側にとっても「情報を共有するメリット」が生まれていく。 ▪ まずは「返却時に必ず1言、その後の変化を聞き取る（またはシートを渡す）という報告書の改善を行っていく。
--	---

決 算 報 告 書

令和 7 年度

自 令和 07 年 04 月 01 日

至 令和 08 年 03 月 31 日

佐賀県在宅生活サポートセンター

佐賀県佐賀市神野東二丁目 6 番 1 号

令和7年度 貸 借 対 照 表

(令和8年3月31日現在)

佐賀県在宅生活サポートセンター

(単位：円)

科 目	当期末	前期末	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	8,867	4,757	4,110
預金	6,178,573	8,122,457	△ 1,943,884
未収金	32,458	32,458	0
立替金	8,830	35,800	△ 26,970
仮払金	1,644	1,644	0
流動資産合計	6,230,372	8,197,116	△ 1,966,744
2 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産	0	0	0
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
特定資産	0	0	0
特定資産合計	0	0	0
(3) その他固定資産			
什器備品	1	1	0
その他固定資産合計	1	1	0
固定資産合計	1	1	0
資産合計	6,230,373	8,197,117	△ 1,966,744
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	2,565,799	2,214,611	351,188
預り金	79,430	118,820	△ 39,390
賞与引当金	1,035,700	936,768	98,932
未払法人税等	152,000	152,000	0
未払消費税	791,900	783,500	8,400
流動負債合計	4,624,829	4,205,699	419,130
2 固定負債			
固定負債	0	0	0
固定負債合計	0	0	0
負債合計	4,624,829	4,205,699	419,130
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
指定寄附金	0	0	0
指定正味財産合計	0	0	0
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2 一般正味財産	1,605,544	3,991,418	△ 2,385,874
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	1,605,544	3,991,418	△ 2,385,874
負債及び正味財産合計	6,230,373	8,197,117	△ 1,966,744

令和7年度 正味財産増減計算書

(令和7年4月1日から令和8年3月31日)

佐賀県在宅生活サポートセンター

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
⑩ 入会金収益	0	0	0
入会金収入	0	0	0
⑪ 会費収益	0	0	0
受取年会費収入	0	0	0
⑫ 事業収益	24,537,093	24,210,123	327,135
管理運営事業収入	30,108,000	30,108,000	0
施設利用料収入	887,735	909,610	△ 21,875
疑似体験費用収入	70,620	51,150	19,470
研修会事業収入	2,598,510	2,303,650	294,860
入居者負担金収入	882,218	847,538	34,680
⑬ 受取補助金	0	0	0
介護ロボット普及モデル事業収入	0	0	0
⑭ 受取寄附金	0	0	0
寄附金収入	0	0	0
⑮ 雑収益	69,832	72,551	△ 2,632
受取利息	13,999	5,441	8,558
雑収入	55,890	73,110	△ 17,220
経常収益計	34,616,972	34,298,499	318,473
(2) 経常費用			
⑯ 事業費			
給料手当	17,762,150	18,093,374	△ 331,224
福利厚生費	32,000	74,900	△ 42,900
法定福利費	3,039,548	2,966,233	73,315
旅費交通費	364,420	417,596	△ 53,176
通信運搬費	255,739	258,318	△ 2,579
消耗什備品費	628,437	0	628,437
消耗品費	767,874	495,626	272,248
修繕費	290,686	472,665	△ 181,979
印刷製本費	351,545	404,800	△ 53,255
燃料費	27,296	22,480	4,816
光熱水料費	2,443,327	2,518,368	△ 75,041
賃借料	743,963	704,363	39,600
保険料	64,950	70,350	△ 5,400
諸謝金	1,355,596	1,255,520	100,076
租税公課	1,570,200	1,559,100	11,100
賞与引当金繰入	1,035,700	936,768	98,932
会議費	29,838	16,720	13,118
委託費	5,144,434	4,718,911	425,523
支払手数料	59,660	58,520	1,140
広報費	137,940	129,360	8,580
研修費	22,000	0	22,000
問題・テキスト等購入費	326,814	186,318	140,496

佐賀県在宅生活サポートセンター

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
雑費	320,738	280,689	40,049
事業費計	36,774,855	35,640,979	1,133,876
② 管理費			
会議費	75,991	62,110	13,881
管理費計	75,991	62,110	13,881
経常費用計	36,850,846	35,703,089	1,147,757
当期経常増減額	△ 2,233,874	△ 1,404,590	△ 829,284
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 2,233,874	△ 1,404,590	△ 829,284
法人税・住民税及び事業税	152,000	152,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,385,874	△ 1,556,590	△ 829,284
一般正味財産期首残高	3,991,418	5,548,008	△ 1,556,590
一般正味財産期末残高	1,605,544	3,991,418	△ 2,385,874
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	0	0	0
一般正味財産へ振替	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	1,605,544	3,991,418	△ 2,385,874

令和7年度 収 支 計 算 書 (資金)

(令和7年4月1日から令和8年3月31日)

佐賀県在宅生活サポートセンター

(単位：円)

科 目	当年度 (A)	前年度 (B)	増 減 (A) - (B)
I 事業活動収支の部			
(1) 事業活動収入			
① 入会金収入	0	0	0
入会金収入	0	0	0
② 会費収入	0	0	0
受取年会費収入	0	0	0
③ 事業収入	34,616,972	34,298,499	318,473
管理運営事業収入	30,108,000	30,108,000	0
施設利用料収入	887,735	909,610	△ 21,875
疑似体験費用収入	70,620	51,150	19,470
研修会事業収入	2,598,510	2,303,650	294,860
入居者負担金収入	882,218	847,538	34,680
④ 補助金等収入	0	0	0
介護ロボット普及モデル事業収入	0	0	0
⑤ 寄附金収入	0	0	0
寄附金収入	0	0	0
⑥ 雑収入	62,633	73,551	△ 10,918
受取利息収入	13,999	5,441	8,558
雑収入	55,890	73,110	△ 17,220
事業活動収入計	34,616,972	34,298,499	318,473
(2) 事業活動支出			
⑦ 人 員 費			
給料手当支出	18,698,918	19,011,470	△ 312,552
福利厚生費支出	32,000	74,900	△ 42,900
法定福利費支出	3,039,548	2,966,233	73,315
旅費交通費支出	364,420	417,596	△ 53,176
通信運搬費支出	255,739	258,318	△ 2,579
消耗什備品費支出	628,437	0	628,437
消耗品費支出	767,874	495,626	272,248
修繕費支出	290,686	472,665	△ 181,979
印刷製本費支出	351,545	404,800	△ 53,255
燃料費支出	27,296	22,480	4,816
光熱水料費支出	2,443,327	2,518,368	△ 75,041
賃借料支出	743,963	704,363	39,600
保険料支出	64,950	70,350	△ 5,400
諸謝金支出	1,355,596	1,255,520	100,076
租税公課支出	1,570,200	1,559,100	11,100
会議費支出	29,838	16,720	13,118
委託費支出	5,144,434	4,718,911	425,523
手数料支出	59,660	58,520	1,140
広報費支出	137,940	129,360	8,580
研修費支出	22,000	0	22,000
問題・テキスト等購入費支出	326,814	186,318	140,496
雑支出	320,738	280,689	40,049
事業費計	36,675,923	35,622,307	1,053,616

佐賀県在宅生活サポートセンター

(単位:円)

科 目	当年度 (A)	前年度 (B)	増 減 (A) - (B)
② 経 費			
会議費支出	75,991	62,110	13,881
管 理 費 計	75,991	62,110	13,881
事業活動支出計	36,751,914	35,684,417	1,067,497
事業活動収支差額	△ 2,134,942	△ 1,385,918	△ 749,024
Ⅱ 投資活動収支の部			
(1) 投資活動収入			
⑨ 固定資産売却収入	0	0	0
固定資産売却収入	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0
(2) 投資活動支出			
⑩ 固定資産取得支出	0	0	0
什器備品取得支出	0	0	0
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
Ⅲ 財務活動収支の部			
(1) 財務活動収入			
⑪ 特定資産取崩収入	0	0	0
特定資産取崩収入	0	0	0
財務活動収入計	0	0	0
(2) 財務活動支出			
⑫ 特定資産積立支出	0	0	0
特定資産積立支出	0	0	0
⑬ 法人税等支出	152,000	152,000	0
法人税等の支払額	152,000	152,000	0
財務活動支出計	152,000	152,000	0
財務活動収支差額	△ 152,000	△ 152,000	0
当期活動収支差額	△ 2,286,942	△ 1,537,918	△ 749,024
前期繰越収支差額	4,928,185	6,466,103	△ 1,537,918
次期繰越収支差額	2,641,243	4,928,185	△ 2,286,942

令和7年度 財 産 目 録

令和8年3月31日現在

佐賀県在宅生活サポートセンター

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現 金			
	小口現金	手元保管	運転資金として	8,867
			【現金計】	8,867
	預 金			
	普通預金	佐賀銀行/神野町支店	運転資金として	6,178,573
			【預金計】	6,178,573
	未収金	職員	社会保険料徴収不足金	32,458
			【未収金計】	32,458
	立替金	職員	市県民税徴収不足金(休職者)	7,200
		職員	源泉所得税(年末調整過大還付金)	1,330
		職員	市県民税徴収不足金	300
			【立替金計】	8,830
	仮払金	佐賀税務署	諸謝金源泉所得税過大納付金	1,644
			【仮払金計】	1,644
流動資産合計				6,230,372
(固定資産)	基本財産			0
			【基本財産計】	0
	特定資産			0
			【特定資産計】	0
	その他の 固定資産	什器備品	介護ロボットパロ 展示用	1
			【その他固定資産計】	1
固定資産合計				1
資 産 合 計				6,230,373
(流動負債)	未払金	職員・嘱託職員	給料手当・③、出張旅費他・⑩～⑫	1,102,122
		有明電設	空調設備保守点検料・③	528,000
		イシバシ商会	消防用設備保守点検料他・③	229,900
		御古賀商事	清掃委託費・②	167,035
		佐賀年金事務所	社会保険料・③	155,950
		九州電気保安協会	電気設備点検・①②③	84,480
		ブラネット・ジェイ	中古職員用机・③	52,800
		三井住友カード	カード利用分・②③	47,503
		三菱電機	エレベーター保守・③	44,550
		職員・嘱託職員	社会保険料過大徴収金	29,578
		講師	謝金・③	27,479
		富士警備保障	警備料・③	25,300
		佐賀市上下水道局	水道下水道料・②③	23,452
		御クリーンリース	マットリース他・③	16,357
		ネクストエッジ	ホームページ更新管理料・③	10,780
		チワタ(アスクール)	消耗品・③	8,032
		J A ビバレッジ	お茶・③	4,095
		職員・嘱託職員	年末調整還付金	3,930

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
	預り金	佐賀税務署	源泉所得税(報酬)	3,356
		佐賀銀行	手数料・③	1,100
			【未払金計】	2,585,798
		職員・嘱託職員	給料源泉所得税・①②③	53,520
		職員・嘱託職員	市県民税・⑤	2,300
		講師	謝金源泉所得税・③	8,731
		講師	謝金源泉所得税・⑥⑩⑪(令和5年度)	14,879
			【預り金計】	79,430
	賞与引当金	職員	引当金	1,035,700
			【賞与引当金計】	1,035,700
	未払法人税等	一般(社)佐賀県作業療法士会	令和7年度法人税等負担額	81,000
		一般(社)佐賀県介護福祉士会	令和7年度法人税等負担額	71,000
			【未払法人税計】	152,000
	未払消費税	一般(社)佐賀県作業療法士会	令和7年度消費税負担額	395,950
		一般(社)佐賀県介護福祉士会	令和7年度消費税負担額	395,950
			【未払消費税計】	791,900
流動負債合計				4,624,829
(固定負債)				
			【固定負債合計】	0
固定負債合計				0
負債合計				4,624,829
正味財産				1,605,544

令和7年度 事業別正味財産増減計算書

(令和7年4月1日から令和8年3月31日)

佐賀県在宅生活サポートセンター

(単位：円)

科 目	指定管理事業			独自事業			内部取引消去	合 計
	サポートセンター 運営事業	バリアフリー住宅 運営事業	小 計	介護用器具等 研修等費等費	福祉用具等 研修等費等費	自主事業		
Ⅰ一般正味財産増減の部								
Ⅰ 経常増減の部								
(1) 経常収益								
入会金収入	0	0	0	0	0	0	0	0
受取年会費収入	0	0	0	0	0	0	0	0
管理運営料収入	23,846,513	6,261,487	30,108,000	0	0	0	0	30,108,000
施設利用料収入	0	0	0	0	0	887,735	0	887,735
就労体験費用収入	70,620	0	70,620	0	0	0	0	70,620
研修会事業収入	12,000	0	12,000	1,100,000	714,010	772,500	0	2,588,510
入居者負担金収入	882,218	0	882,218	0	0	0	0	882,218
介護ロボット普及モデル事業収入	0	0	0	0	0	0	0	0
寄附金収入	0	0	0	0	0	0	0	0
受取利息	0	0	0	0	0	13,999	0	13,999
雑収入	220,720	0	220,720	0	0	16,610	△ 181,440	55,890
経常収益計	25,032,071	6,261,487	31,293,558	1,100,000	714,010	1,690,844	△ 181,440	34,616,972
(2) 経常費用								
給料手当	13,593,077	4,189,073	17,782,150	0	0	0	0	17,782,150
福利厚生費	32,000	0	32,000	0	0	0	0	32,000
法費福利費	2,340,452	699,096	3,039,548	0	0	0	0	3,039,548
旅費交通費	216,984	58,458	275,420	0	0	89,000	0	364,420
通信運搬費	226,161	15,348	241,509	3,260	7,700	3,270	0	255,739
消耗什備品費	331,437	0	331,437	198,000	99,000	0	0	628,437
消耗品費	311,093	17,068	328,161	59,127	16,255	364,331	0	767,874
修繕費	128,436	162,250	290,686	0	0	0	0	290,686
印刷製本費	307,411	27,824	335,235	84,850	112,800	0	△ 181,440	351,545
燃料費	27,296	0	27,296	0	0	0	0	27,296
光熱水料費	2,019,402	243,555	2,262,957	0	0	180,360	0	2,443,327
賃借料	743,963	0	743,963	0	0	0	0	743,963
保険料	42,380	22,570	64,950	0	0	0	0	64,950
諸謝金	238,778	31,338	270,116	278,000	271,000	530,480	0	1,355,595
租税公課	1,570,200	0	1,570,200	0	0	0	0	1,570,200

佐賀県在宅生活サポートセンター

(単位：円)

科 目	指定施設事業			雑司事業				内部取引消去	合 計
	サポートセンター 運営事業	バリアフリー住宅 運営事業	小 計	介護相談員養成 研修等委託事業	福祉用具専門相談 員養成研修事業	自主事業	小 計		
実与引当金繰入	364,536	171,164	1,035,700	0	0	0	0	0	1,035,700
会費費	29,838	0	29,838	0	0	0	0	0	29,838
委託費	4,497,194	620,840	5,118,034	0	0	26,400	26,400	0	5,144,434
支払手数料	55,910	660	57,570	1,320	110	660	2,000	0	59,680
広報費	125,004	12,936	137,940	0	0	0	0	0	137,940
研修費	19,800	2,200	22,000	0	0	0	0	0	22,000
問題・テキスト等購入費	15,180	0	15,180	169,884	101,750	40,000	311,634	0	326,814
雑費	236,739	0	236,739	26,984	17,567	39,448	83,999	0	320,738
事業費計	27,974,251	6,254,488	34,228,739	821,425	632,182	1,273,949	2,727,556	△ 181,440	36,774,855
③管理費									
会議費	68,992	5,999	75,991	0	0	0	0	0	75,991
管理費計	68,992	6,998	75,991	0	0	0	0	0	75,991
経常費用計	28,043,243	6,261,487	34,304,730	821,425	632,182	1,273,949	2,727,556	△ 181,440	36,850,846
当期経常増減額	△ 3,011,172	0	△ 3,011,172	278,575	81,828	418,895	777,298	0	△ 2,233,874
2 経常外増減の部									
④経常外収益									
経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤経常外費用									
経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 3,011,172	0	△ 3,011,172	278,575	81,828	418,895	777,298	0	△ 2,233,874
法人税・住民税及び事業税	152,000	0	152,000	0	0	0	0	0	152,000
当期一般正味財産増減額	△ 3,163,172	0	△ 3,163,172	278,575	81,828	418,895	777,298	0	△ 2,385,874